

第六章 人権への配慮について

第六章 人権への配慮について

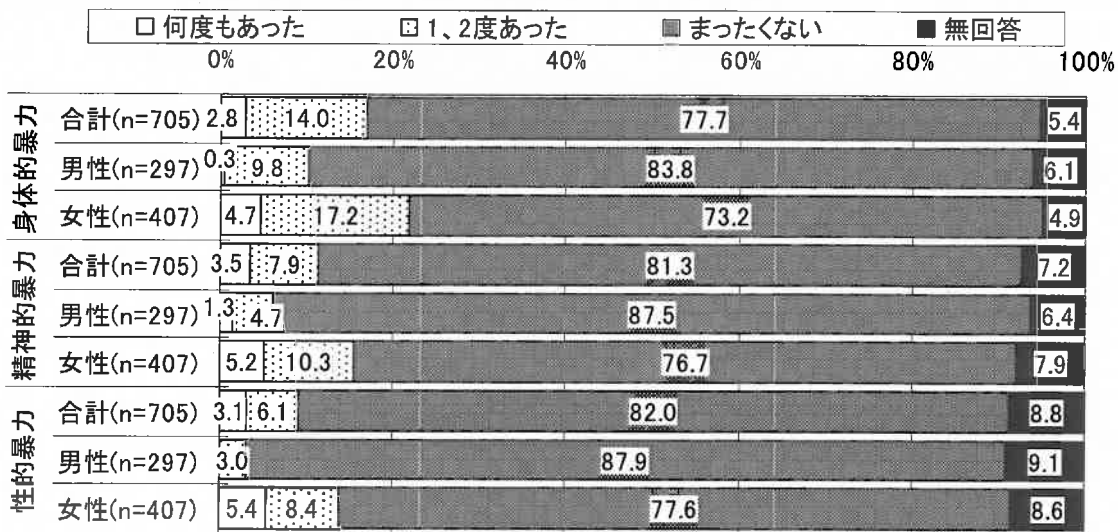
1. ドメスティック・バイオレンス（DV）の経験について【問14、問14-1】

(1) 全体

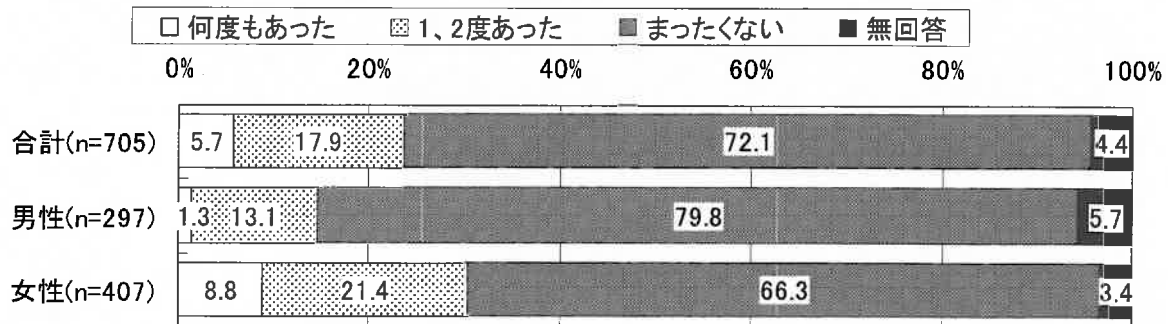
基本属性で、配偶者について「配偶者あり」「配偶者と離別」「配偶者と死別」と回答した人に、ドメスティック・バイオレンスの経験を尋ねたところ、配偶者からの暴力を受けた経験について、全体としては「何度もあった」「1、2度あった」をあわせて、身体的暴力について受けた経験があると回答した人の割合が16.8%と高くなっており、精神的暴力は11.4%、性的暴力は9.2%となっている。これを性別で見ると身体的暴力、精神的暴力、性的暴力のいずれにおいても、男性よりも女性の方が暴力を受けた経験が多くなっている。

なお、身体的暴力、精神的暴力、性的暴力のいずれかの暴力を1つでも受けた経験がある人は、全体では23.6%であり、特に女性では30.2%と多数にのぼっている。

[図表 6-1-1] 暴力を受けた経験（性別）《SA》

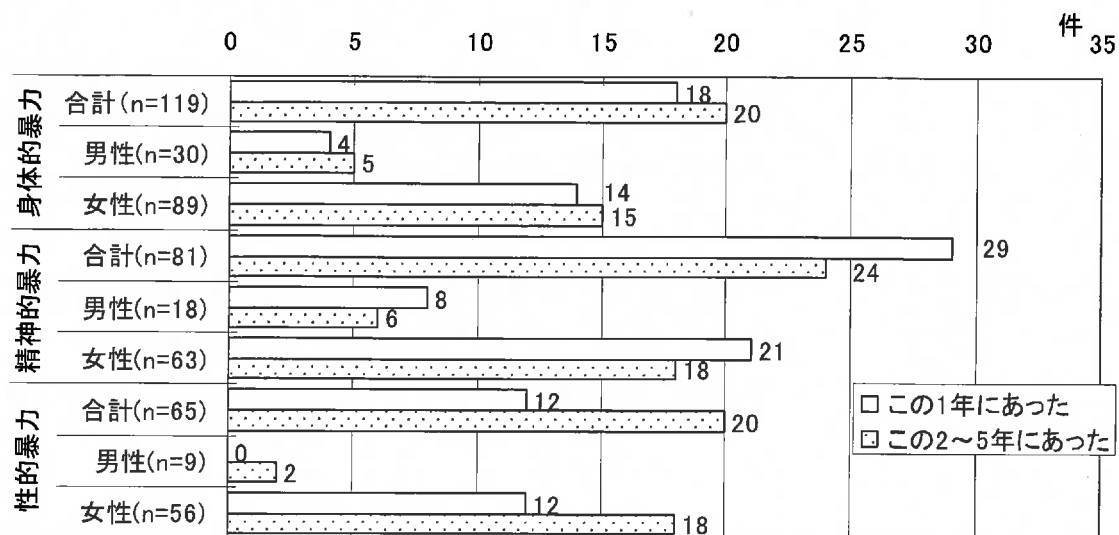


[図表 6-1-2] いずれかの暴力を1つでも受けた経験（性別）《SA》



暴力を受けた経験がある人に最近の経験を尋ねると、過去5年以内に暴力を受けたと回答したのは、比較的女性に多くなっている。

[図表 6-1-3] 過去5年以内に暴力を受けた経験（性別）《MA》

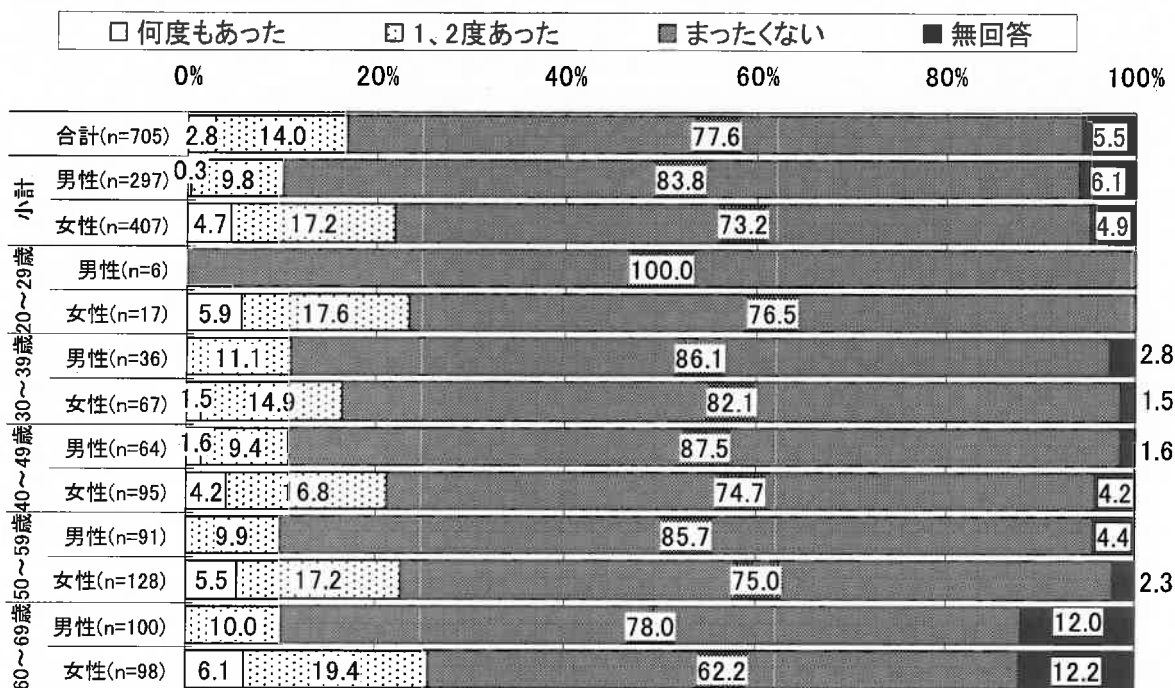


(2) 身体的暴力 (性別・年齢別)

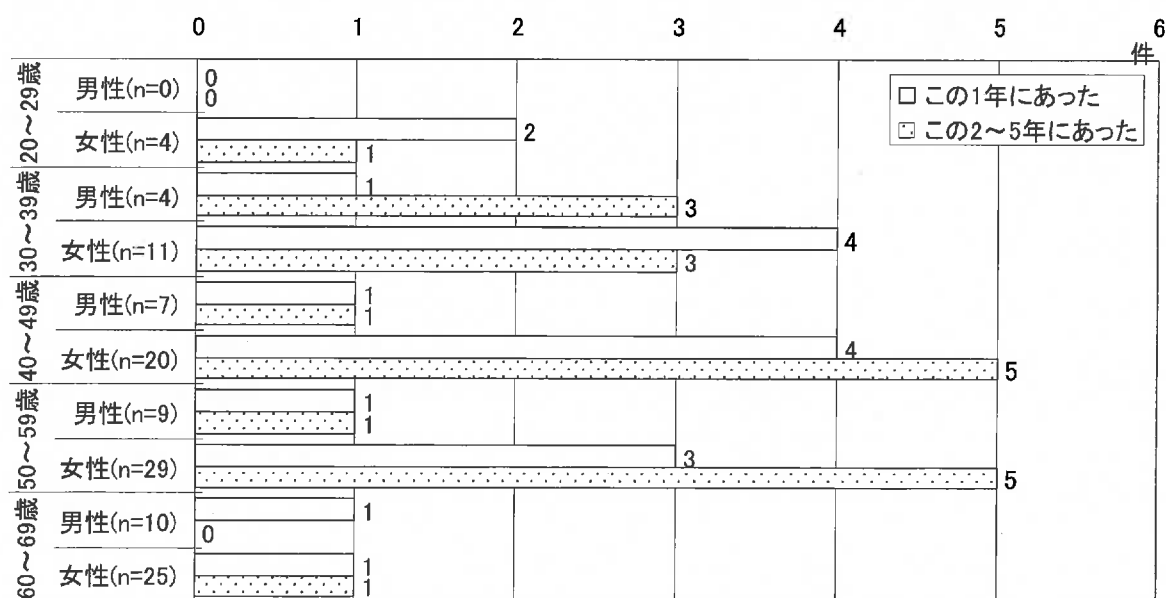
20代はサンプル数が少なく分析に堪えないが、そのほかの年代については、なぐったりけったりという身体的な暴力を受けた経験については、年齢が上がるにつれて経験があるとする回答が増加している。その中でも、男性では「何度もあった」とする回答はほとんどなく、女性に回答が集中していることが特徴である。

過去5年以内の経験については解答のサンプル数が少ないが、「この1年」「この2～5年」とも、30代～50代で「あった」とする回答が多くなっていることが特徴である。

[図表 6-1-4] 身体的暴力を受けた経験 (性別・年齢別) <<SA>>



[図表 6-1-5] 過去5年以内に身体的暴力を受けた経験 (性別・年齢別) <<MA>>

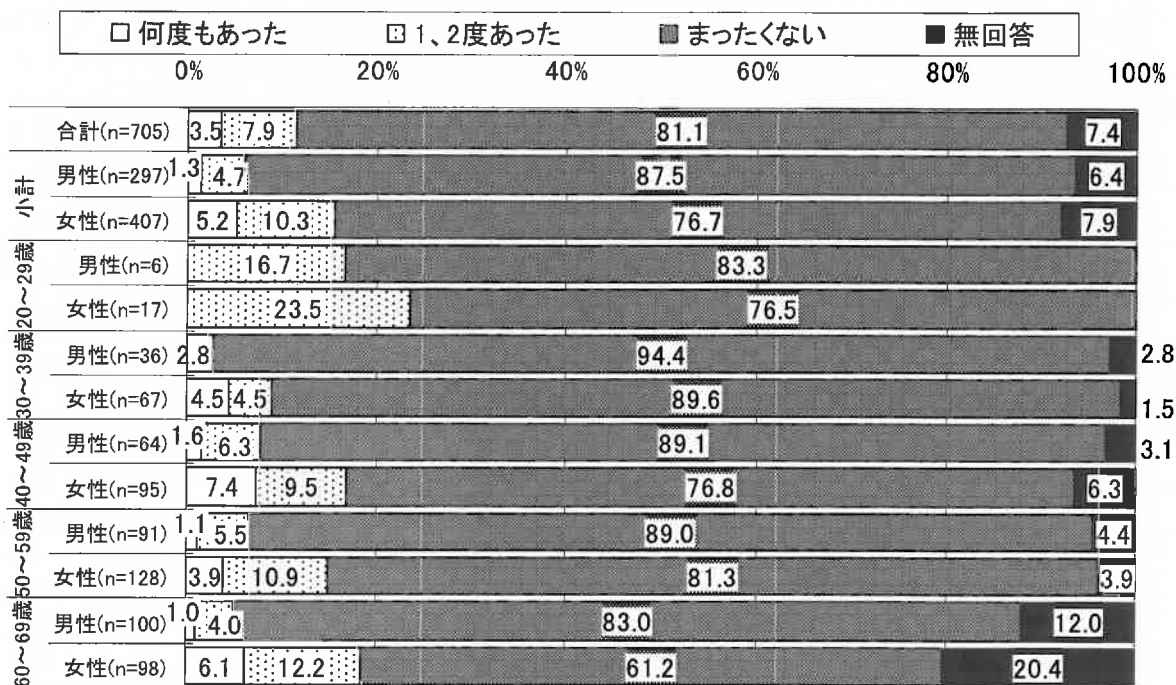


(3) 精神的暴力（性別・年齢別）

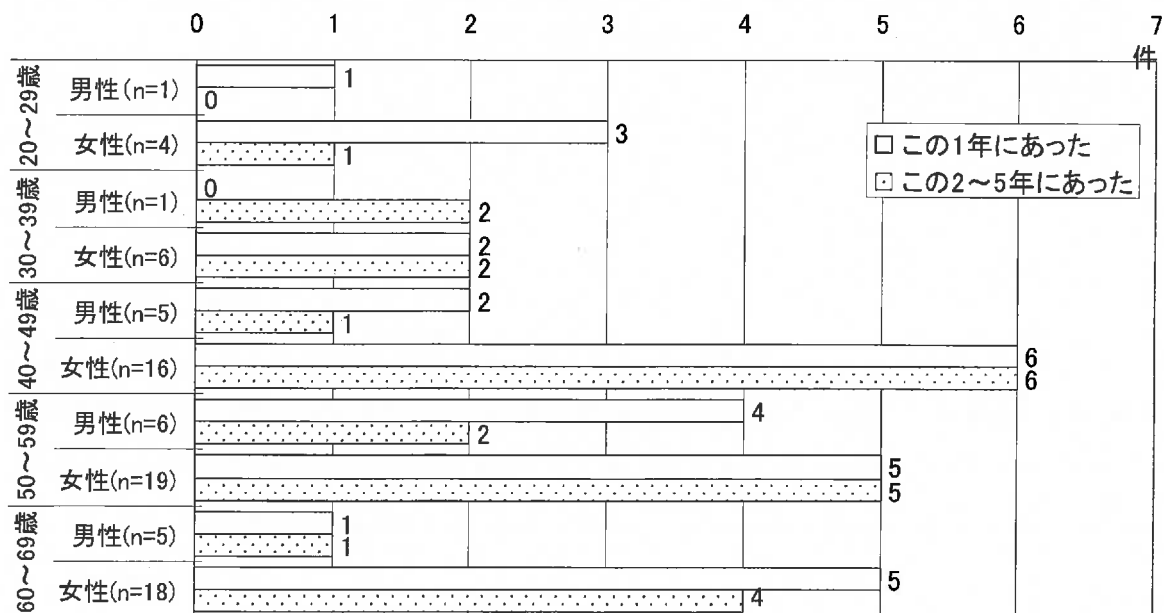
暴言や精神的な嫌がらせなどという精神的な暴力を受けた経験についても、おおむね年齢が上がるにつれて経験があるとする回答が増加している。また、身体的暴力とは異なり、男性でも「何度もあった」とする回答が比較的多くなっている。

過去5年以内の経験については、「この1年にあった」、「この2～5年にあった」とも、40代～60代の女性で多くなっている。

[図表 6-1-6] 精神的暴力を受けた経験（性別・年齢別）《SA》



[図表 6-1-7] 過去5年以内に精神的暴力を受けた経験（性別・年齢別）《MA》

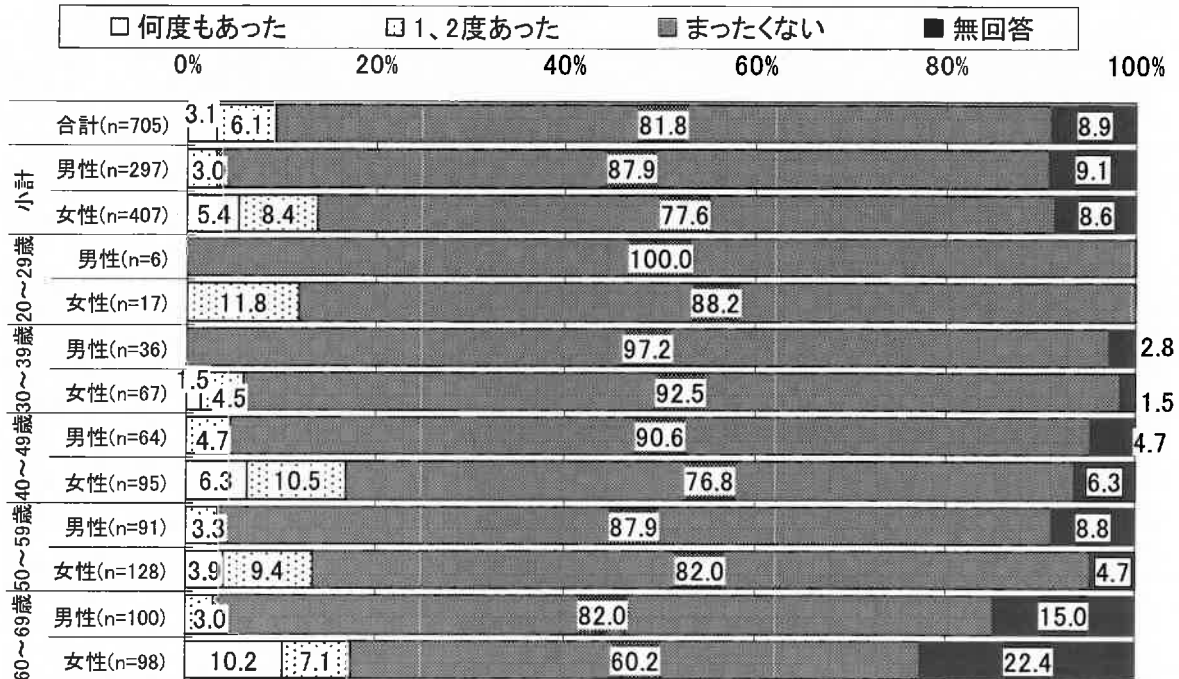


(4) 性的暴力(性別・年齢別)

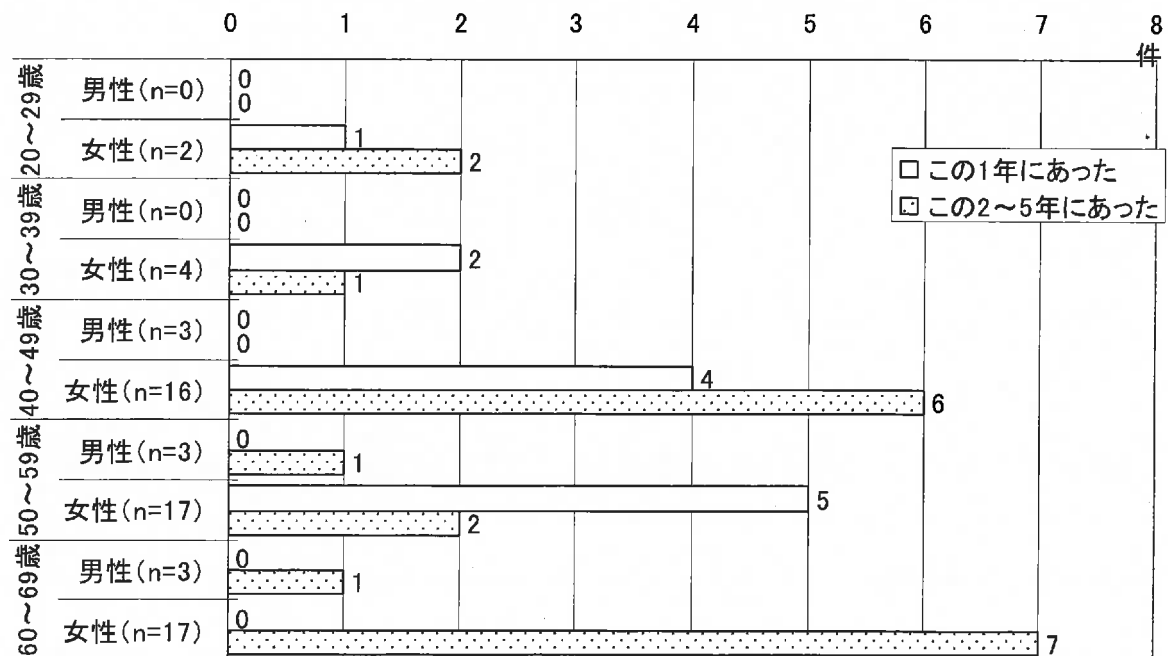
性的行為を無理強いされたなどという性的な暴力を受けた経験については、40代～60代の女性で比較的回答が多くなっている。

過去5年以内の経験については、男性ではほとんど回答がなく、女性では40代、50代において「この1年にあった」とする回答が多く、40代、60代において「この2～5年にあった」とする回答が多い。

[図表 6-1-8] 性的暴力を受けた経験(性別・年齢別) <<SA>>



[図表 6-1-9] 過去5年以内に性的暴力を受けた経験(性別・年齢別) <<MA>>



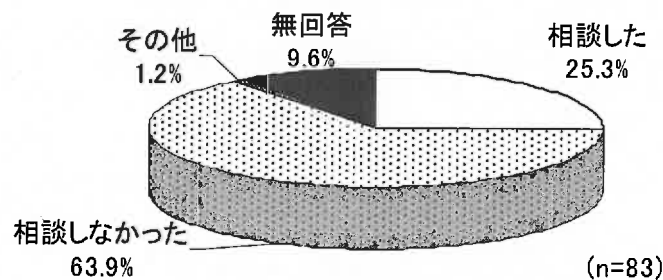
2. 配偶者から暴力を受けたとき誰かに相談したか【問 14-2】

問 14-1 で暴力を受けた経験が「この 1 年にあった」「この 2～5 年にあった」と回答した人にそのとき誰かに相談したかどうかを尋ねたところ、「相談した」と回答したのは 25.3%で、「相談しなかった」が 63.9%であった。

相談した場合の相談先としては「友人」が最も多く、これに次いで「両親」、「配偶者の両親」、「家族」と身内への相談が多くなっているほか、「公的相談所・相談員」も多い。

相談しなかった理由としては、「自分にも非がある」が 25 件、「自分が我慢すればいい」と「相談するほどのことではない」がともに 19 件、「相談しても無駄」が 13 件、「恥ずかしかった」が 12 件であった。

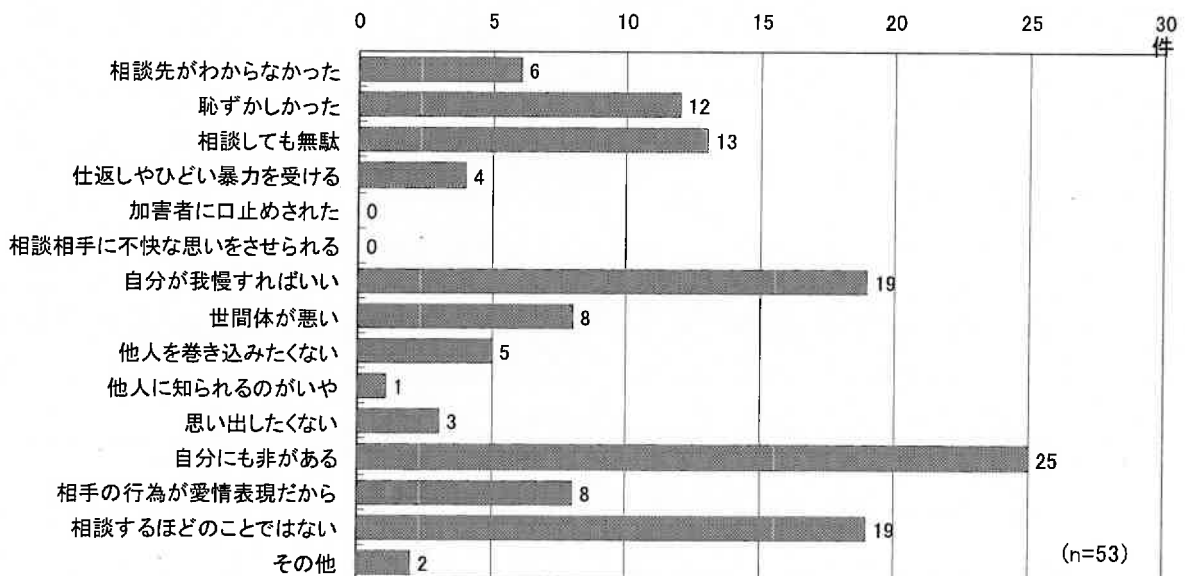
【図表 6-2-1】 配偶者から暴力を受けたときに誰かに相談したか《SA》



【図表 6-2-2】 配偶者から暴力を受けたときの相談先

相談先	件数
友人	10 件
両親	5 件
配偶者の両親	5 件
公的相談所・相談員	5 件
家族	4 件
上司・会社の同僚	3 件
兄弟姉妹	2 件

【図表 6-2-3】 配偶者から暴力を受けたとき相談しなかった理由《MA》

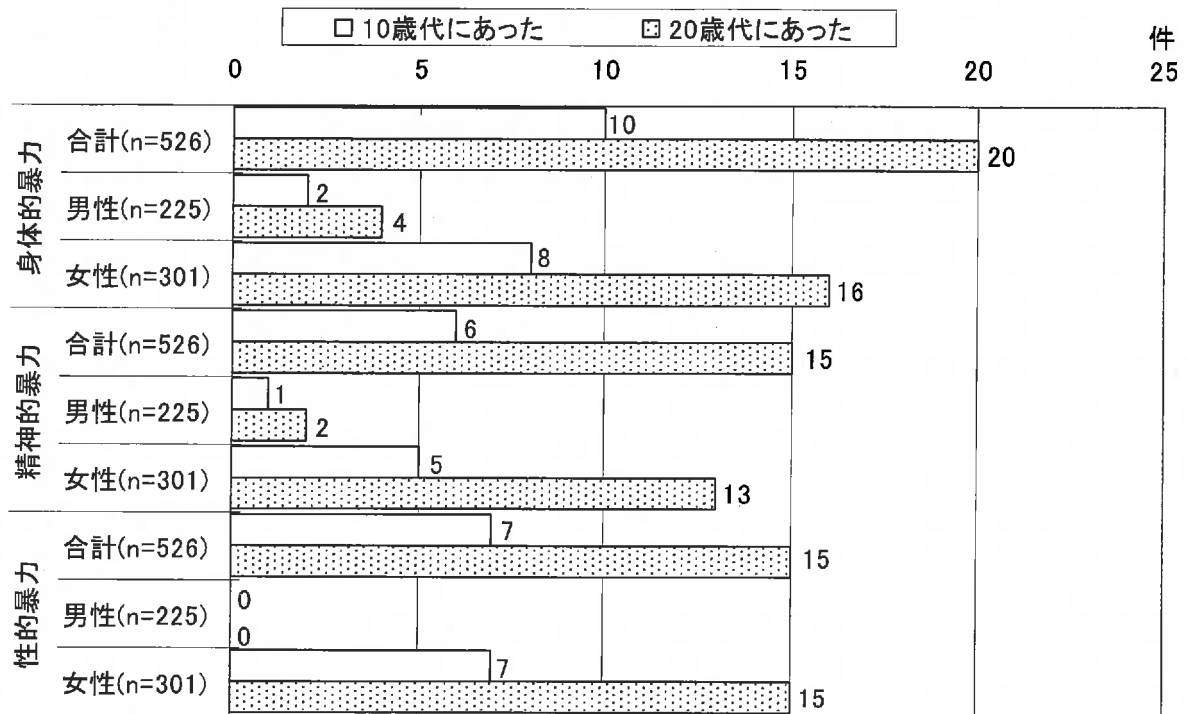


3. 10歳代、20歳代に交際相手から暴力を受けた経験があるか【問15-1】

(問15で交際相手が「いた(いる)」と回答した人のみ)

現在の配偶者ではなく、10歳代、20歳代当時の交際相手に暴力を受けた経験があるかどうかを尋ねたところ、全体的に「あった」という回答は少なかった。その中でも、身体的暴力については女性を中心に20歳代で20件、10歳代で10件の回答があり、精神的暴力については20歳代で15件、10歳代で6件、性的暴力についても、20歳代で15件、10歳代で7件あった。

【図表6-3-1】10歳代、20歳代に交際相手から暴力を受けた経験があるか(性別)《MA》



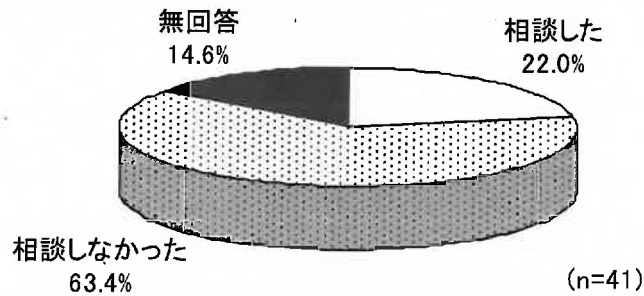
4. 交際相手から暴力を受けたとき誰かに相談したか【問 15-2】

問 15-1 で交際相手から暴力を受けた経験が「10 歳代にあった」「20 歳代にあった」と回答した人に、そのとき誰かに相談したかどうかを尋ねたところ、「相談した」と回答したのは 22.0%で、「相談しなかった」が 63.4%であった。

相談した場合の相談先としては友人が最も多くなっている。

相談しなかった理由としては、「恥ずかしかった」が 9 件、「相談先がわからなかった」と「自分が我慢すればいい」がともに 8 件、「相談しても無駄」と「仕返しやひどい暴力を受ける」が 6 件などであった。

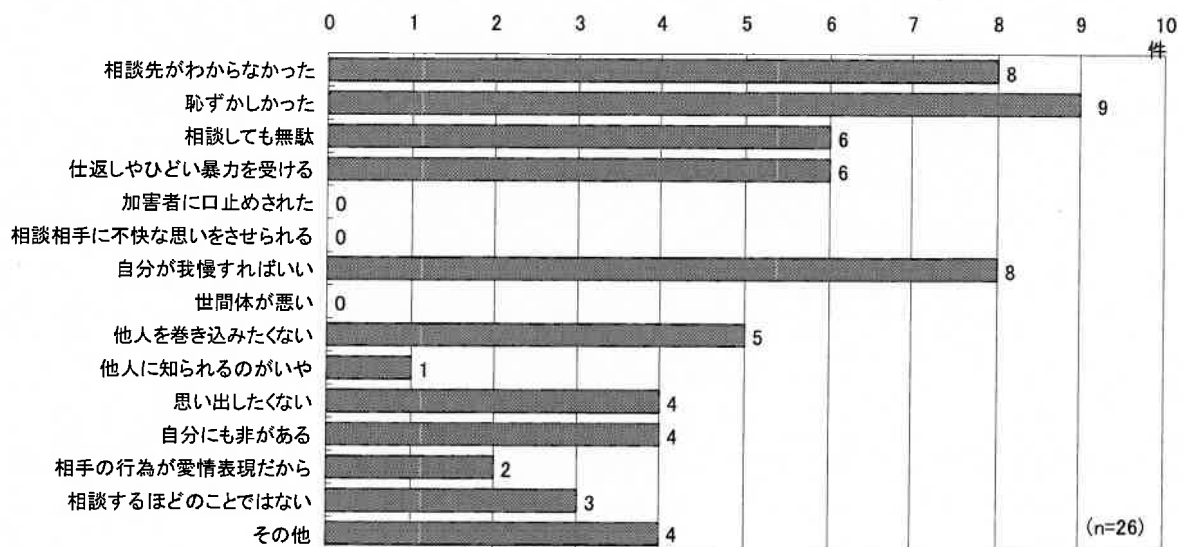
【図表 6-4-1】 交際相手から暴力を受けたときに誰かに相談したか《SA》



【図表 6-4-2】 交際相手から暴力を受けたときの相談先

相談先	件数
友人	9 件
相手の両親	2 件
兄弟	1 件
先輩	1 件
警察	1 件

【図表 6-4-3】 交際相手から暴力を受けたときに相談しなかった理由《MA》



5. セクシュアル・ハラスメント（セクハラ）について経験したり見聞きしたりしたことがあるか【問16】

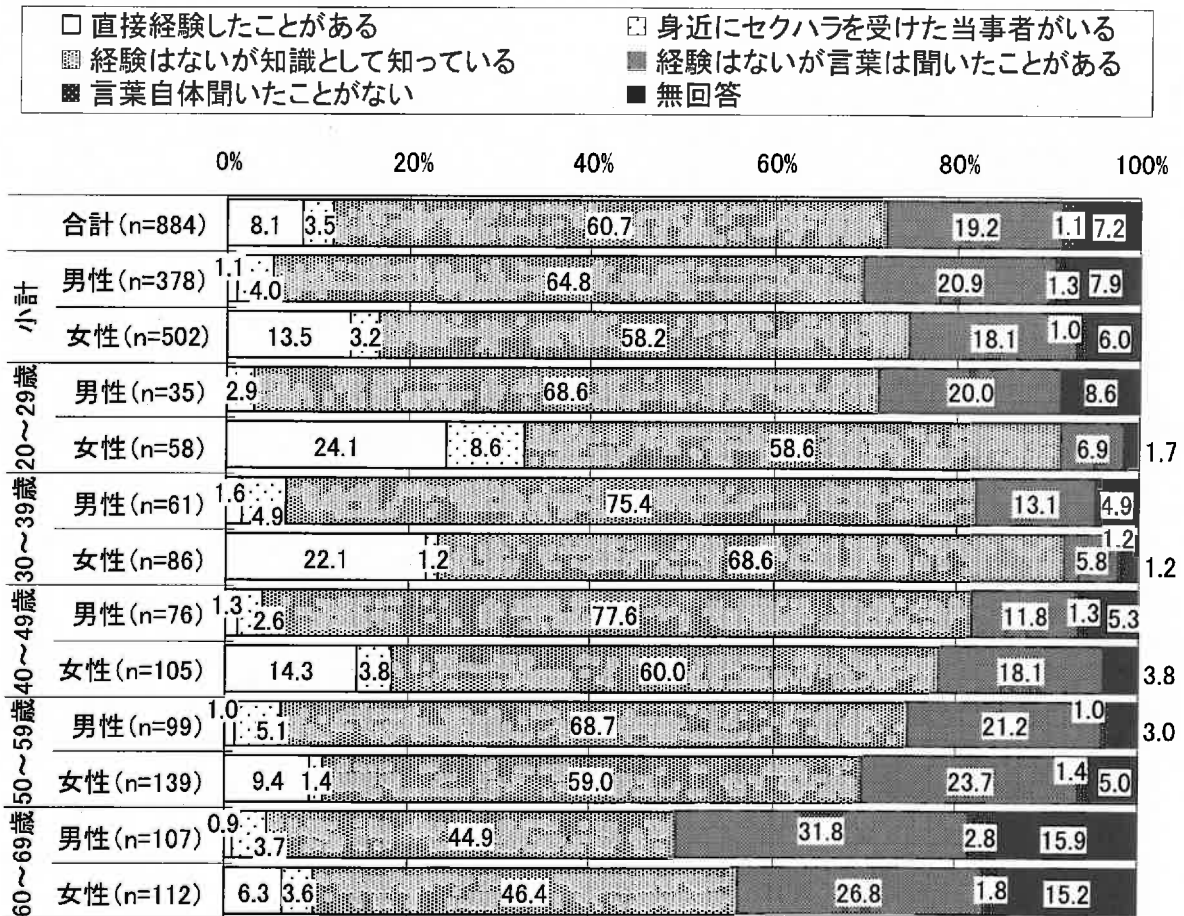
(1) 性別・年齢別

全体としては「知識として知っている」とする回答が最も多く、60.7%を占めた。自分自身が「直接経験したことがある」という回答は8.1%あり、「身近にセクハラを受けた当事者がいる」も3.5%あった。

これを性別に見ると、「直接経験した」ことがあるのは女性に多く、女性全体の13.5%が回答した。男性では直接経験したという人は少ないが、「身近にセクハラを受けた当事者がいる」という回答は女性よりも多くなっている。また「知識として知っている」とする回答も、64.8%と女性（58.2%）よりも多くなっている。

年齢別に見ると、若い世代の女性ほど「直接経験したことがある」とする回答が多く、年齢が上がるにつれて回答が少なくなる傾向にある。「身近にセクハラを受けた当事者がいる」という回答も20代の女性で多い。「言葉自体聞いたことがない」という回答は、20代では男女ともになく、30代の女性、40代の男性に各1名いたほか、高い年齢層でわずかながら見られる。

【図表 6-5-1】 セクハラの実験（性別・年齢別） << SA >>

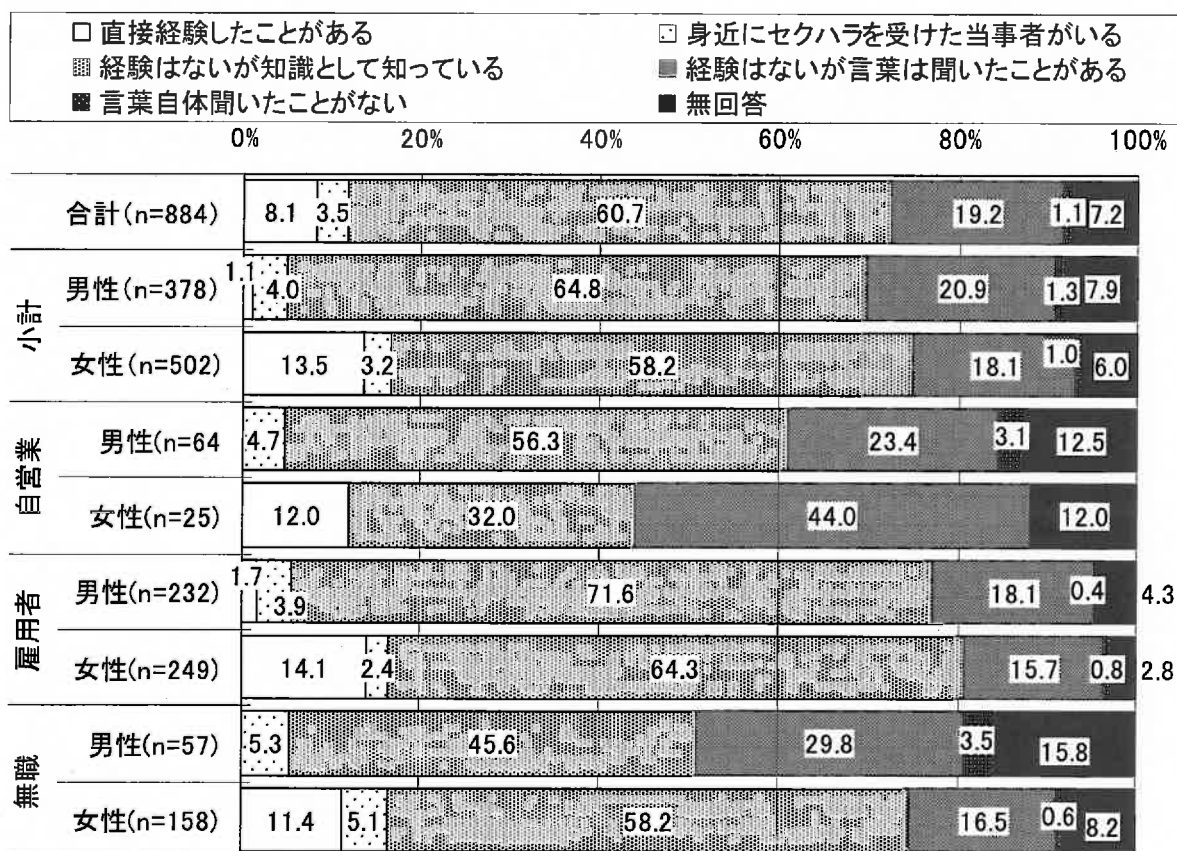


(2) 性別・職業別

職業別に見ると、雇用者の女性において「直接経験したことがある」とする回答の割合が比較的高く14.1%となっているが、自営業の女性でも12.0%、無職女性でも11.4%と、セクハラを受けた経験がある女性は、会社勤めに限らず広い範囲にわたっている。一方雇用者の男性では「経験はないが知識として知っている」とする回答が71.6%と高いが、「直接経験したことがある」(1.7%)、「身近にセクハラを受けた当事者がいる」(3.9%)とする回答は少なく、女性の経験との乖離を見せている。

また、「経験はないが言葉は聞いたことがある」とする回答は、自営業の女性(44.0%)、無職の男性(29.8%)に多くなっている。

[図表 6-5-2] セクハラの実験 (性別・職業別) << SA >>



6. セクハラを受けたとき誰かに相談したか【問 16-1】

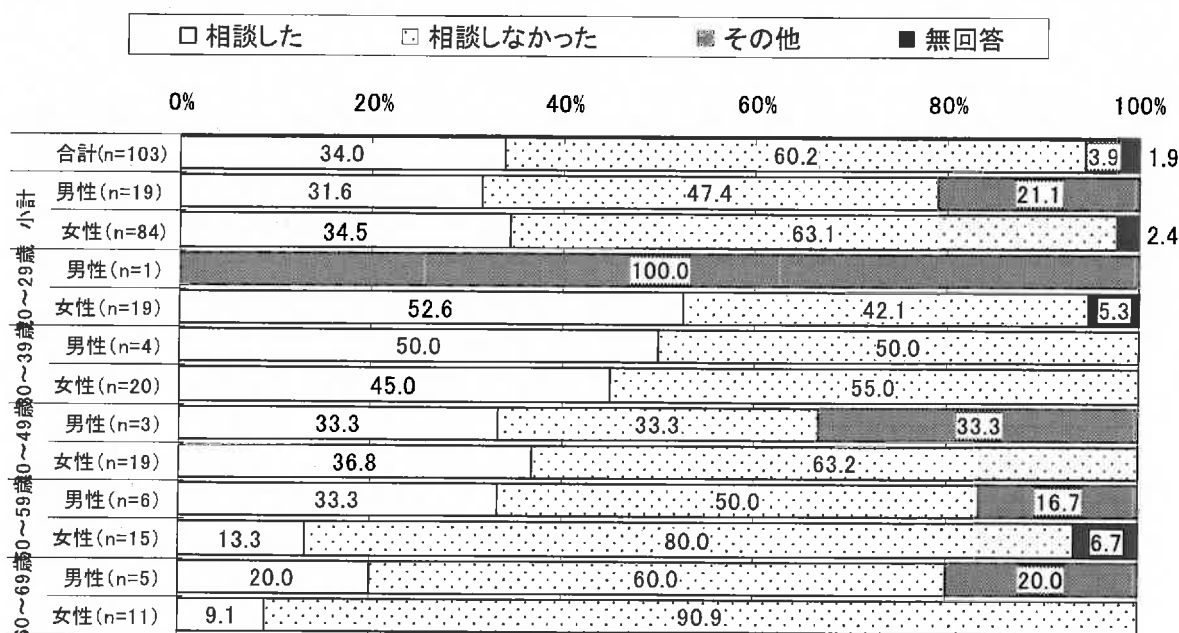
(1) 相談したかどうか

問 16 でセクハラを「直接経験した」「身近にセクハラを受けた当事者がいる」と回答した人に対して、そのとき誰かに相談したかどうかを尋ねたところ、全体として「相談した」が 34.0%、「相談しなかった」が 60.2%であった。性別に見ると、「相談した」のは男性で 31.6%、女性で 34.5%であった。

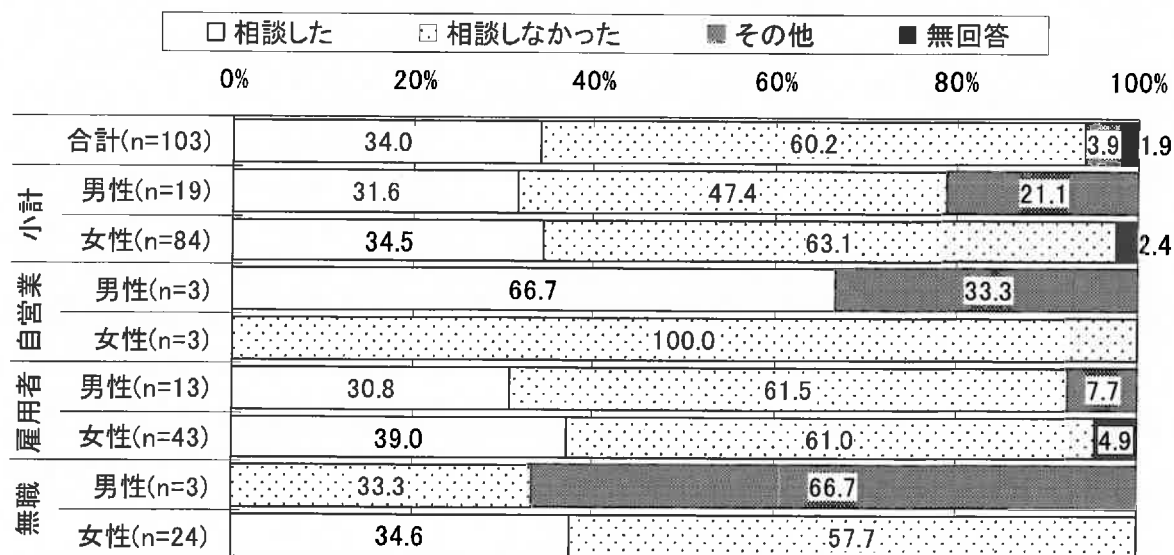
年齢別に見ると、若い世代ほど「相談した」とする割合が高く、20代女性では 52.6%、30代男性では 50.0%となっている。60代になると、「相談した」のは男性で 20.0%、女性で 9.1%にとどまっている。

これを職業別に見ると、自営業の男女、無職の男性はサンプル数が少なく分析に堪えないが、雇用者の男女、無職の女性とともに、「相談した」「相談しなかった」の回答割合の傾向に大きな差はない。

【図表 6-6-1】 セクハラを経験したとき誰かに相談したか（性別・年齢別）《SA》



【図表 6-6-2】 セクハラを受けたとき誰かに相談したか（性別・職業別）《SA》



(2) 相談した場合の主な相談先

「相談した」と回答した場合の相談先としては、以下のとおりとなった。

最も多かったのは会社の上司（13件）で、これに友人が12件、職場の同僚が8件、公的機関・会社の相談室等が5件などと続いた。両親・その他の親族、配偶者はそれぞれ4件、3件と少なく、身内にあまり相談していない結果となった。

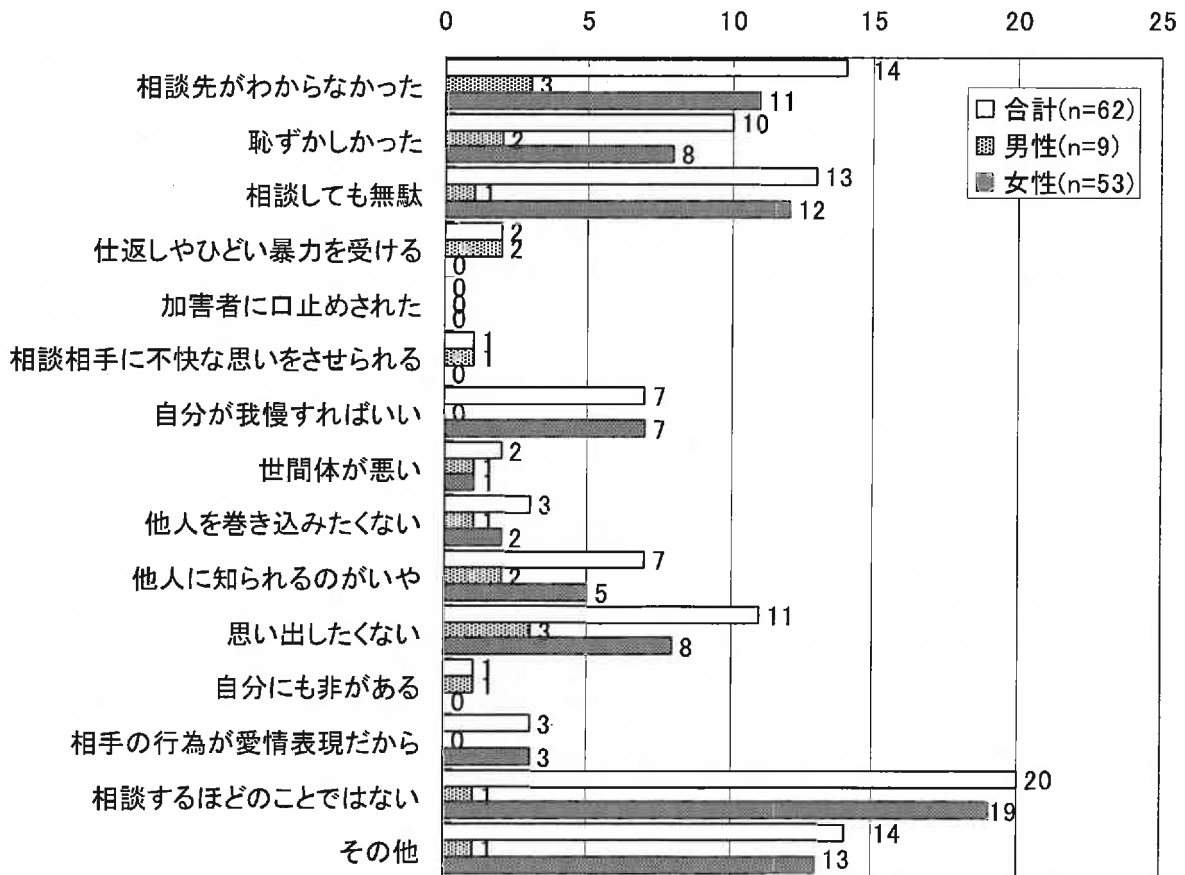
[図表 6-6-3] セクハラを受けたときの相談先<MA>

相談先	件数
会社の上司	13件
友人	12件
職場の同僚	8件
公的機関・会社の相談室等	5件
両親・その他の親族	4件
配偶者	3件
警察	2件

(3) 相談しなかった理由

セクハラを受けたときに相談しなかった理由として、最も多かったのは「相談するほどのことではない」とする回答で、女性を中心に20件であった。次いで多かったのは「相談先がわからなかった」で14件、「相談しても無駄」が13件、「思い出したくない」が11件などとなっている。

[図表 6-6-4] セクハラを経験して相談しなかった理由（性別）<MA>



7. DVやセクハラをなくすために必要なこと【問17】

(1) 全体・性別

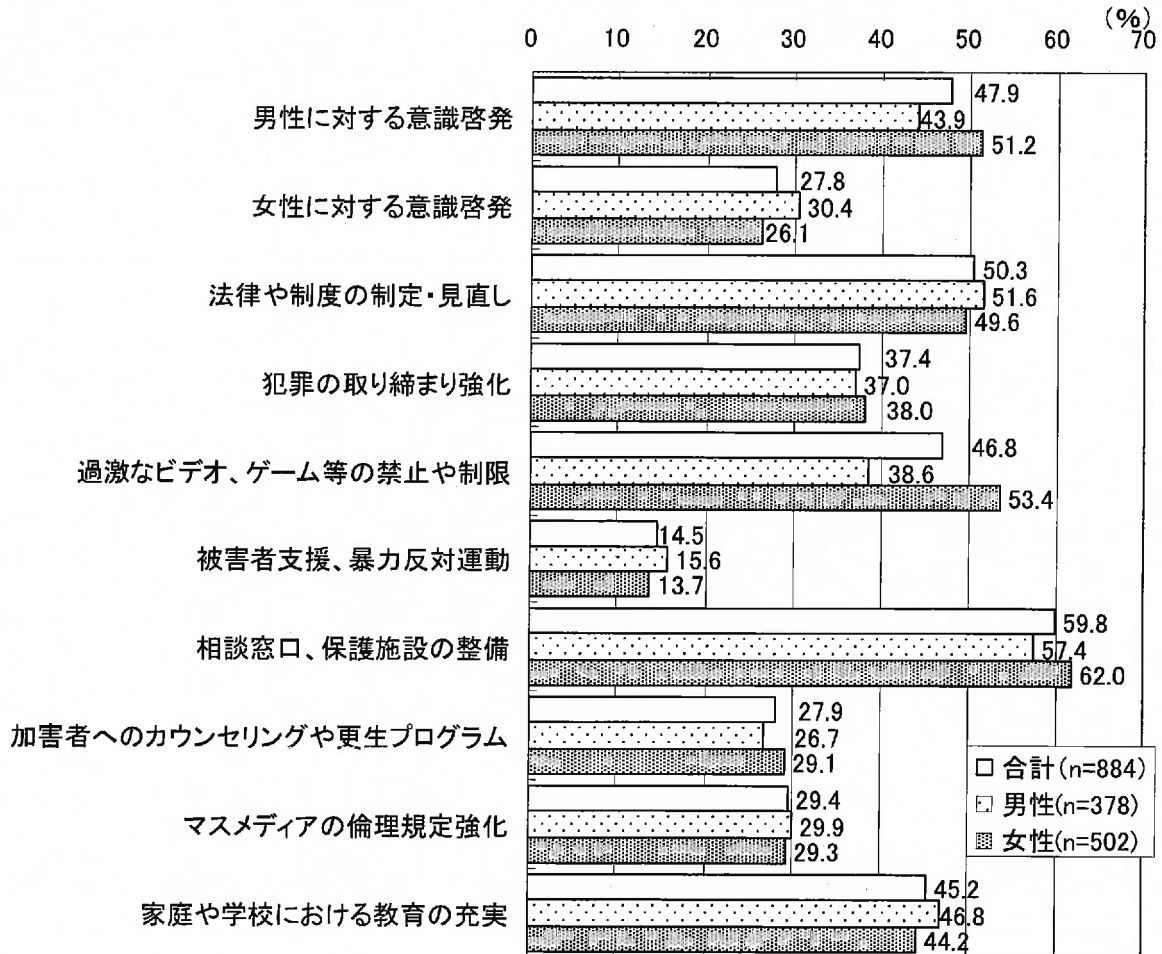
最も多かった回答は「相談窓口、保護施設の整備」で、男女とも60%前後の回答があった。全体として次に多かったのは「法律や制度の制定・見直し」が50.3%、「男性に対する意識啓発」が47.9%、「過激なビデオ、ゲーム等の禁止や制限」が46.8%などとなっている。

性別に見ると、男性では第一位、第二位は全体と変わらないものの、第三位には「家庭や学校における教育の充実」が46.8%、第四位に「男性に対する意識啓発」が43.9%が続いている。

一方女性では、第一位は全体と変わらないものの、第二位には「過激なビデオ、ゲーム等の禁止や制限」が53.4%で続き、「男性に対する意識啓発」が51.2%、「法律や制度の制定・見直し」が49.6%、「家庭や学校における教育の充実」が44.2%などとなっている。

男女で特に意識の差が見られた項目について、「過激なビデオ、ゲーム等の禁止や制限」では男性よりも女性の方が14.8%高く、「男性に対する意識啓発」は7.3%、「相談窓口、保護施設の整備」でも4.6%高かった。一方、女性よりも男性の方が高かった項目としては、「女性に対する意識啓発」で4.3%高く、男女間で意識の相違が見られる。

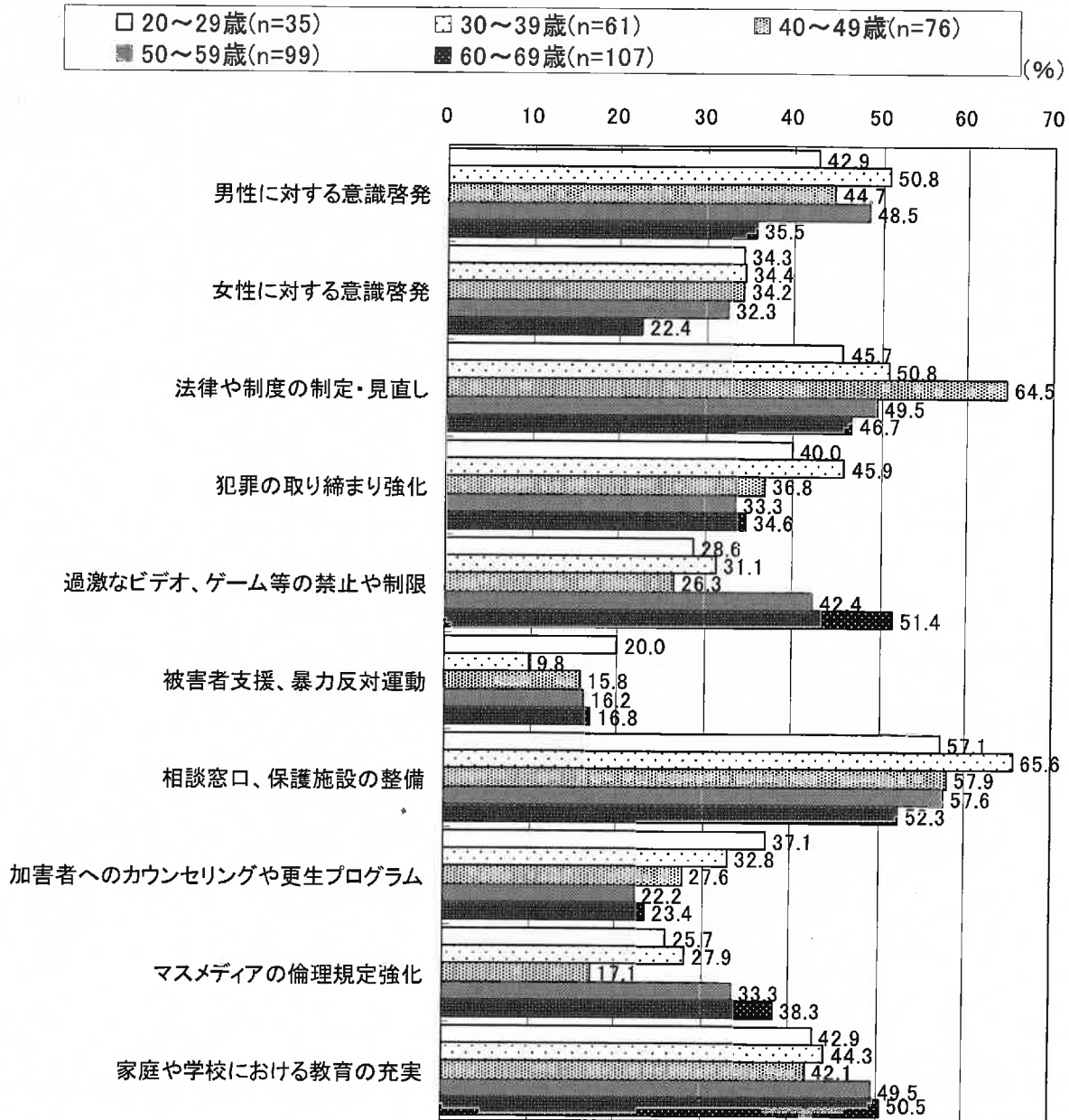
【図表 6-7-1】 DVやセクハラをなくすために必要なこと（性別）《MA》



(2) 男性・年齢別

男性の回答を年齢別に見ると、最も多かった「相談窓口、保護施設の整備」は30代を中心に幅広く支持を集めており、「法律や制度の制定・見直し」は40代で特に回答が多かった。「家庭や学校における教育の充実」については高年齢層を中心として回答が多かったほか、「男性に対する意識啓発」では30代～50代の世代で比較的多かった。男性全体では女性より少なかった「過激なビデオ、ゲーム等の禁止や制限」については、50代、60代の高年齢層で多くの回答があった。

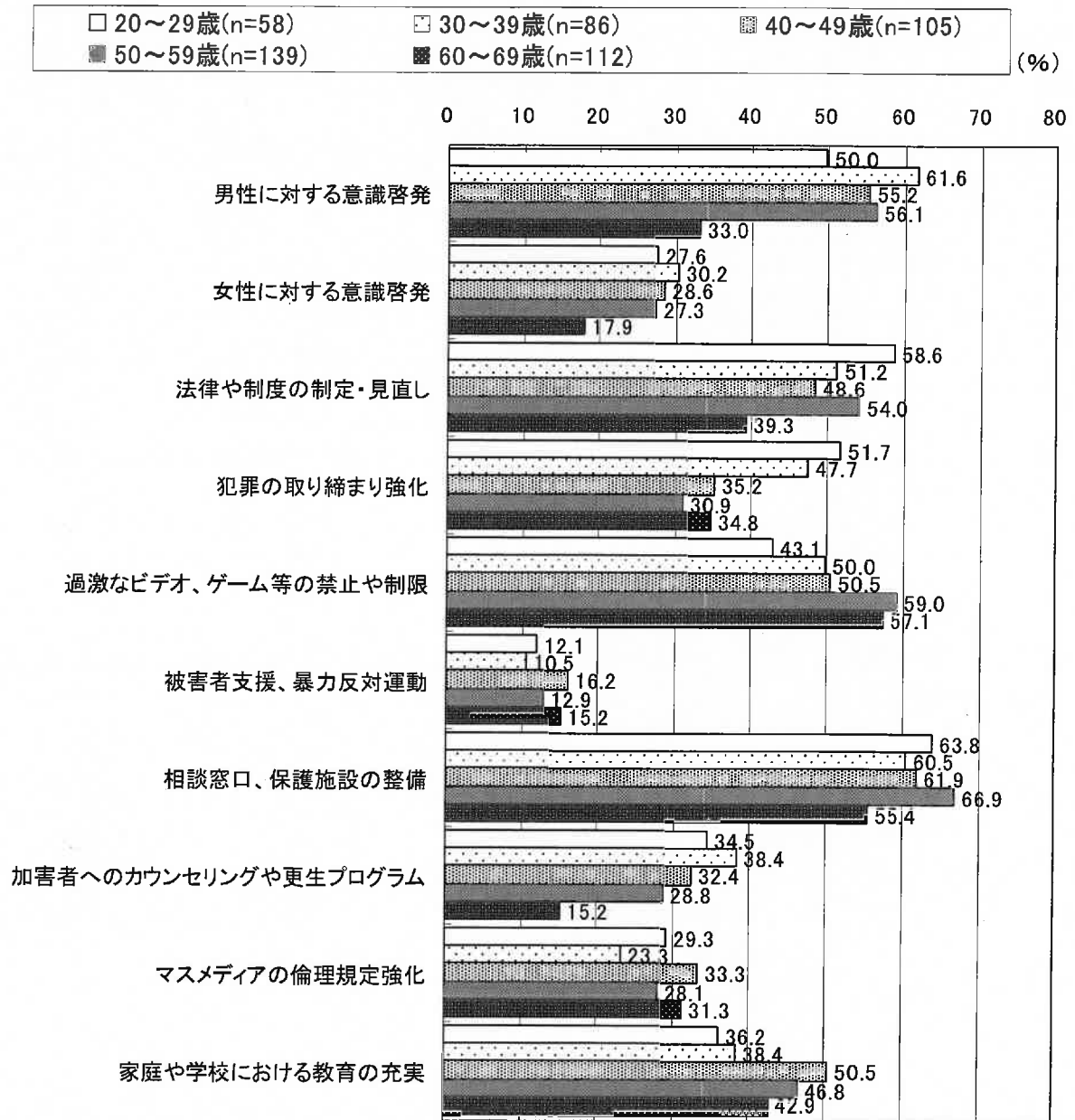
[図表 6-7-2] DVやセクハラをなくするために必要なこと（男性・年齢別）《MA》



(3) 女性・年齢別

女性の回答を年齢別に見ると、「相談窓口、保護施設の整備」はやはり多くの世代でまんべんなく支持を集めている。女性全体で第二位だった「過激なビデオ、ゲーム等の禁止や制限」については、男性と同様やはり高年齢層で多くの回答を集め、全体で第三位だった「男性に対する意識啓発」については30代～50代の中堅世代で回答が多かった。

[図表 6-7-3] DVやセクハラをなくすために必要なこと（女性・年齢別）《MA》



第七章 社会参画について

第七章 社会参画について

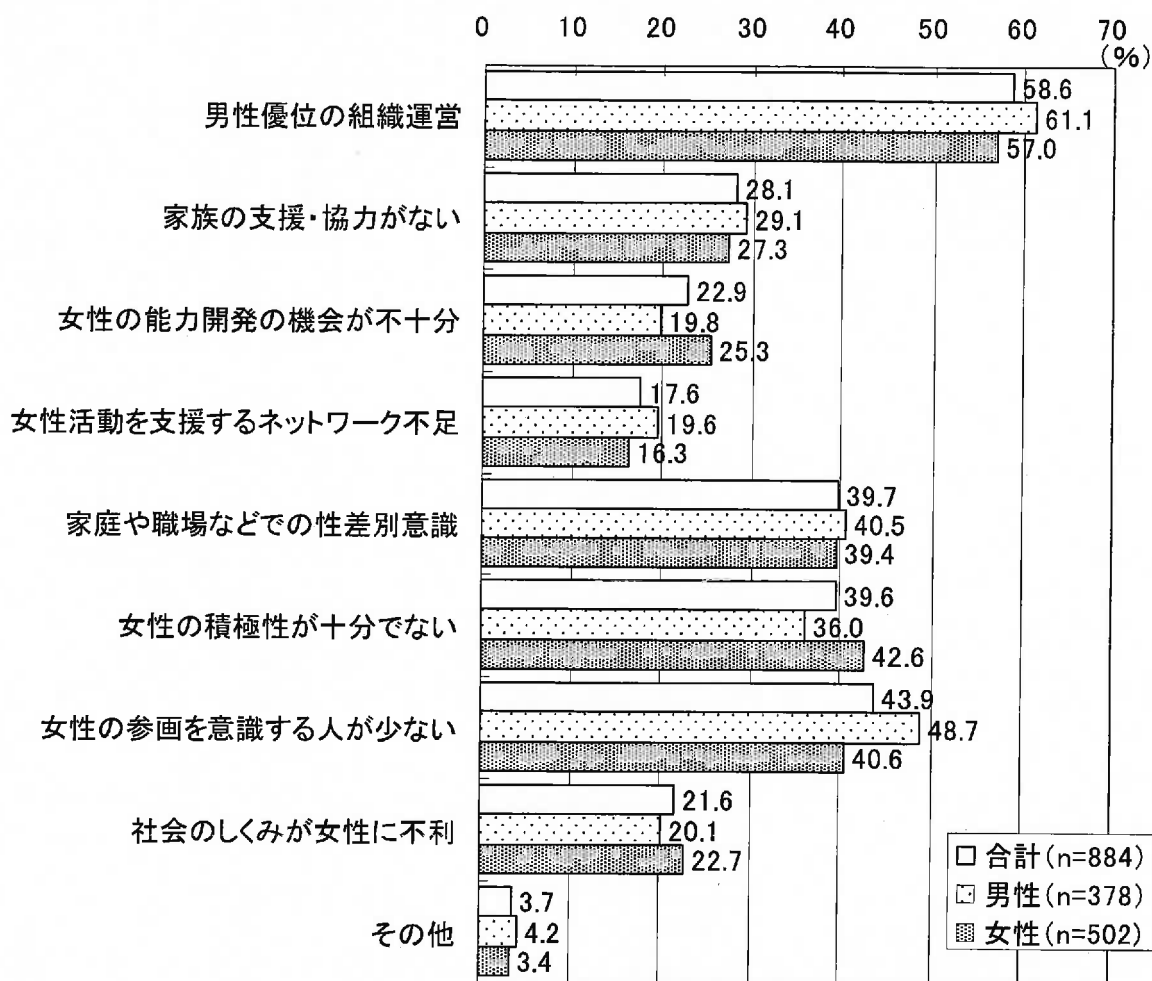
1. 企画や方針決定過程への女性の参加が少ない理由【問18】

(1) 全体・性別

全体としては「男性優位の組織運営」が最も多く 58.6%、次いで「女性の参画を意識する人が少ない」が 43.9%、「家庭や職場などでの性差別意識」が 39.7%、「女性の積極性が十分でない」が 39.6%などとなった。

これを性別に見ると、「男性優位の組織運営」については女性よりもむしろ男性の方が回答の割合が高く、「女性の参画を意識する人が少ない」という回答に関しても、男性の方がより高い割合で回答している。「家庭や職場などでの性差別意識」については男女ほぼ同じ回答率だが、「女性の積極性が十分でない」に関しては逆に女性の方が男性よりも高い割合の回答となっている。

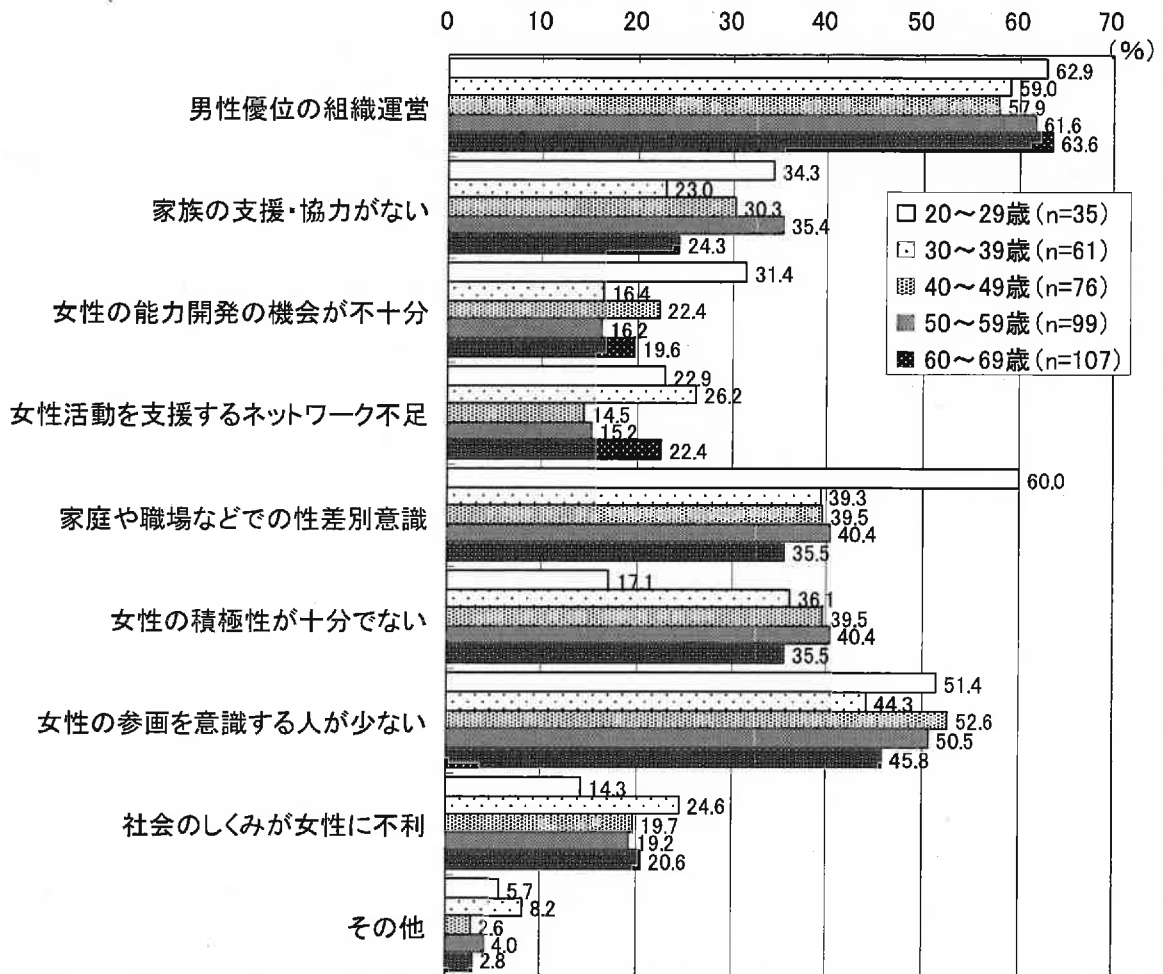
[図表 7-1-1] 企画や方針決定過程への女性の参加が少ない理由（性別）<MA>



(2) 男性・年齢別

男性の回答を年齢別に見ると、第一位の「男性優位の組織運営」は比較的どの世代でも回答率が高い。「女性の参画を意識する人が少ない」については、30代と60代で若干回答率が低く、「家庭や職場などでの性差別意識」については、特に20代で顕著に回答率が高いのが特徴である。逆に、「女性の積極性が十分でない」の項目では20代の回答率が目立って低くなっている。

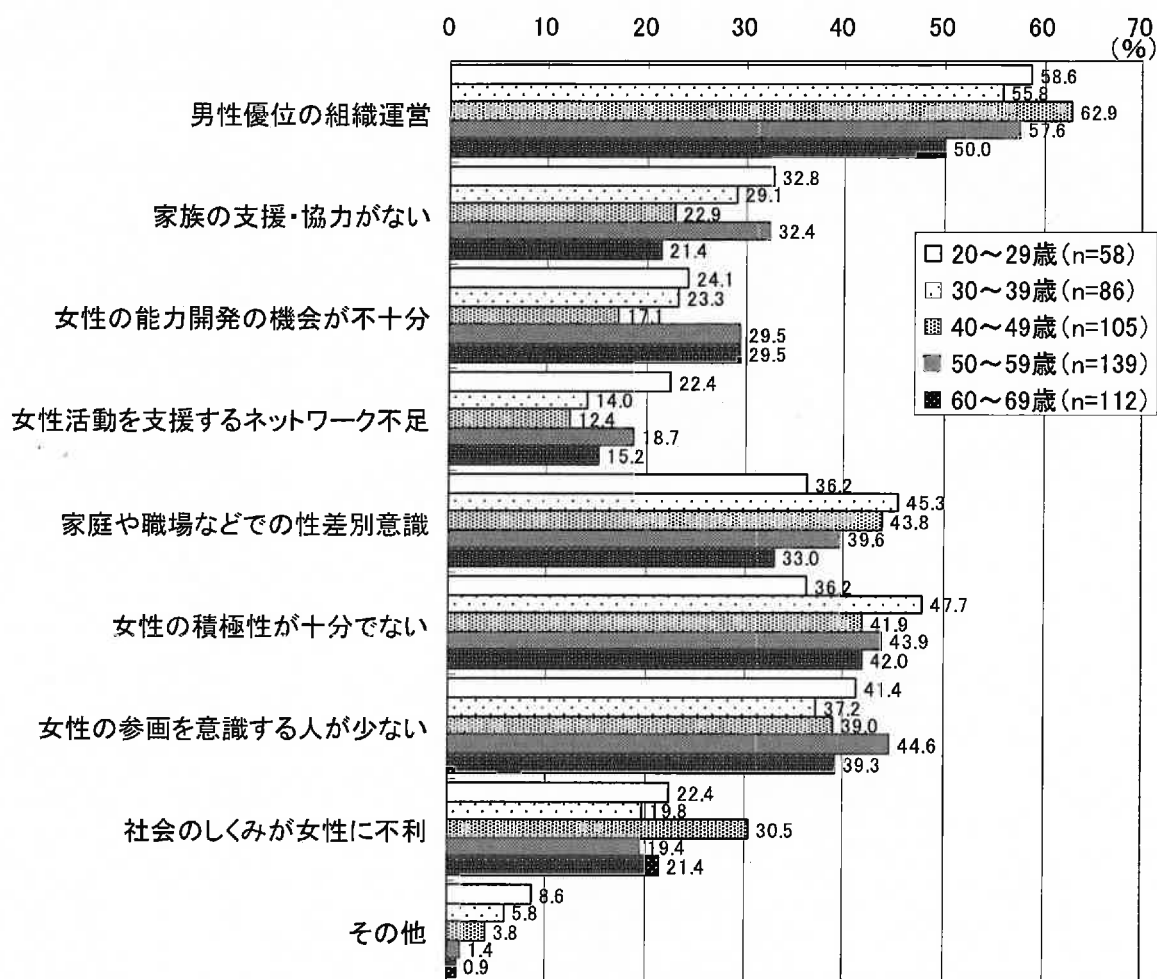
[図表 7-1-2] 企画や方針決定過程への女性の参加が少ない理由（男性・年齢別）《MA》



(3) 女性・年齢別

女性の回答を年齢別に見ると、「男性優位の組織運営」の項目は、男性と同様多くの世代で回答率が高くなっているが、60代で若干低くなっている。「家庭や職場などでの性差別意識」、「女性の積極性が十分でない」は30代で回答率が高く、「女性の参画を意識する人が少ない」に関しては、50代で回答率が高くなっている。

[図表 7-1-3] 企画や方針決定過程への女性の参加が少ない理由（女性・年齢別）《MA》



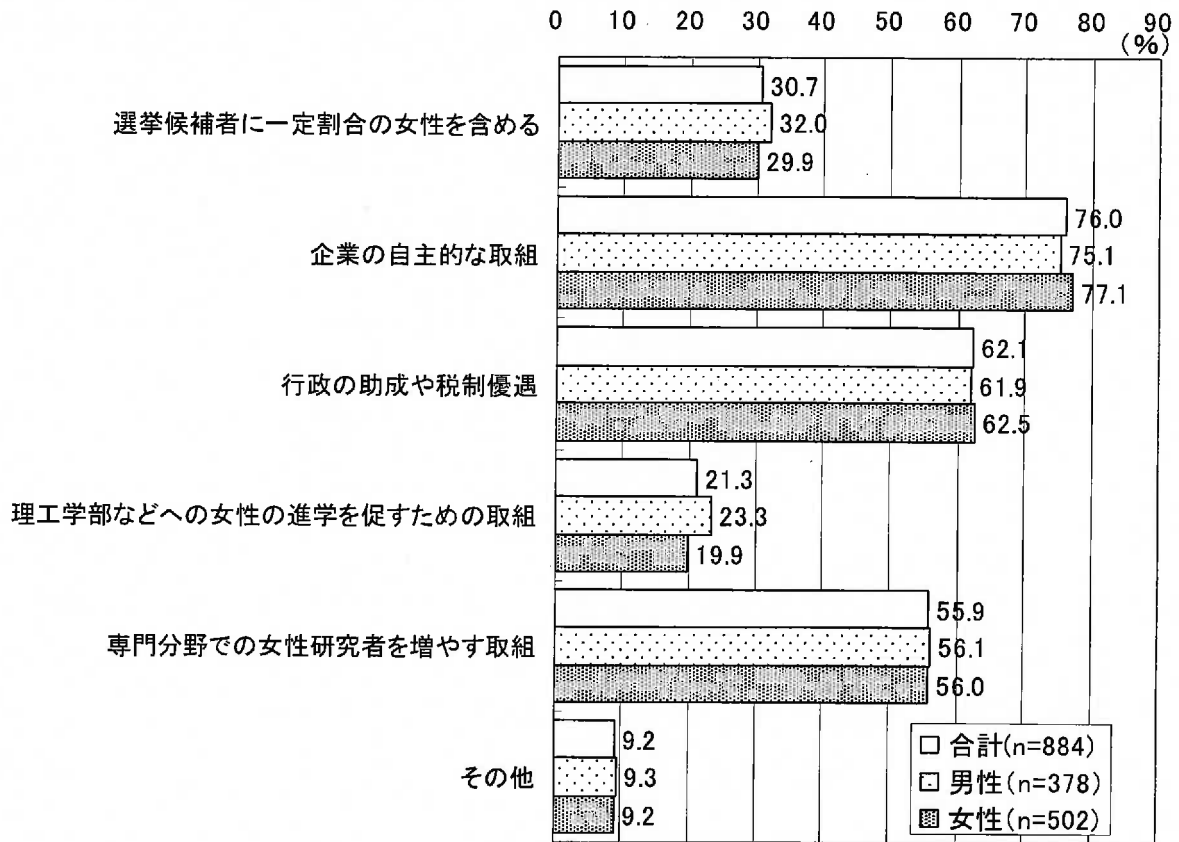
2. 女性の社会進出を進めるために必要なこと【問 19】

(1) 全体・性別

女性の社会進出があまり進んでいない分野へ女性の進出を進めるために必要なことについては、全体の4分の3にあたる76.0%が、女性社員の採用や管理職への登用、教育訓練などの「企業の自主的な取組」をあげた。次いで多かったのは、女性を積極的に活用する企業への「行政の助成や税制優遇」が62.1%で、女性の社会進出の第一歩は、まず労働面での待遇改善に意見が集中した。次いで、「専門分野での女性研究者を増やす取組」が55.9%、「選挙候補者に一定割合の女性を含める」が30.7%となった。

なお、男性と女性の間には大きな回答率のばらつきは見られない。

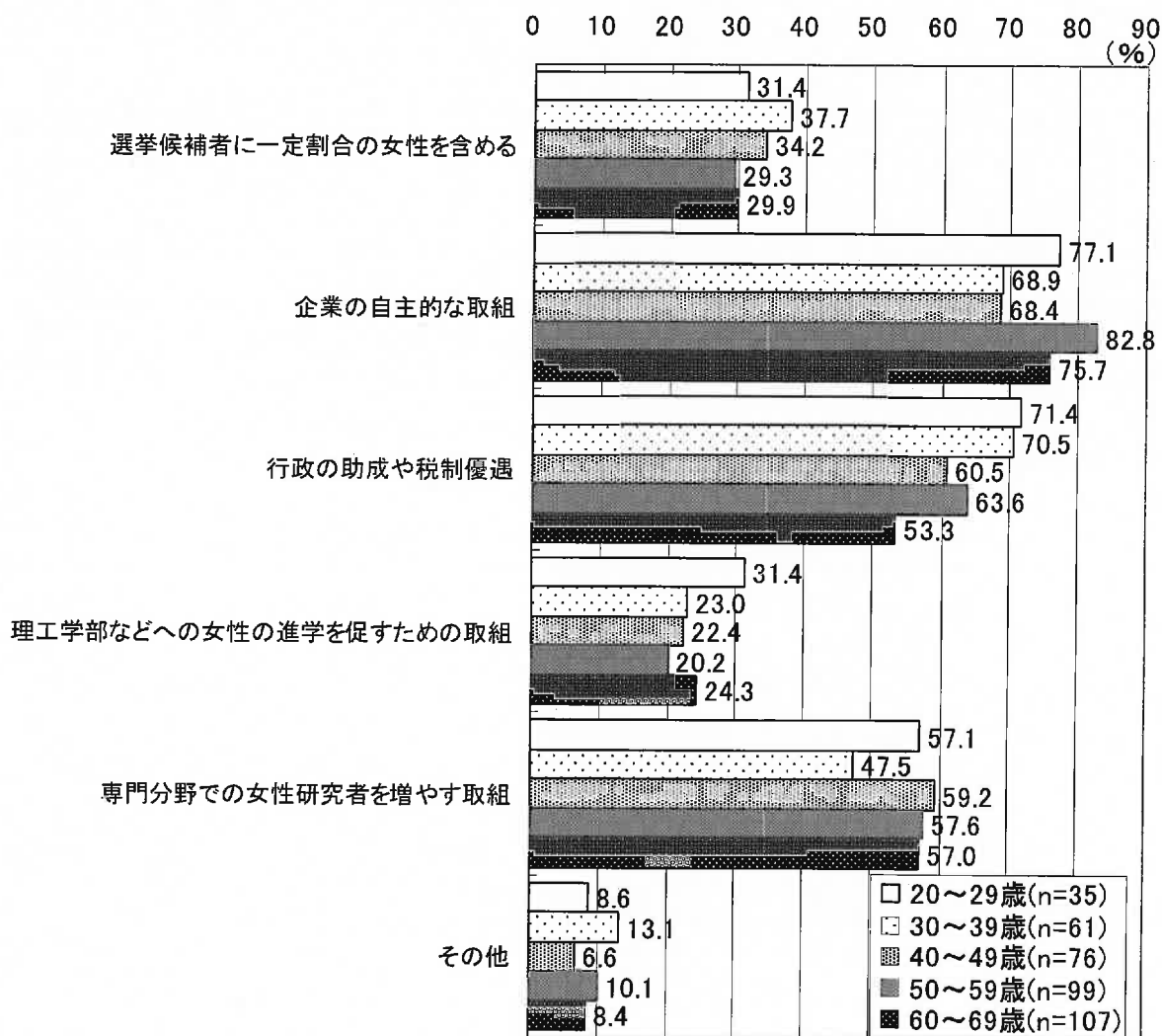
【図表 7-2-1】女性の進出を進めるために必要なこと（性別）〈MA〉



(2) 男性・年齢別

男性の回答を年齢別に見ると、「企業の自主的な取組」に関しては、20代(77.1%)、50代(82.8%)、60代(75.7%)で回答率が高く30代(68.9%)、40代(68.4%)では比較的回答率が低くなっている。「行政の助成や税制優遇」については若い世代ほど回答率が高くなっており、20代では71.4%であったのが、60代では53.3%にとどまっている。「専門分野での女性研究者を増やす取組」に関しては、30代で47.5%と若干回答率が下がるが、ほかの世代では57~59%程度の回答率となっている。

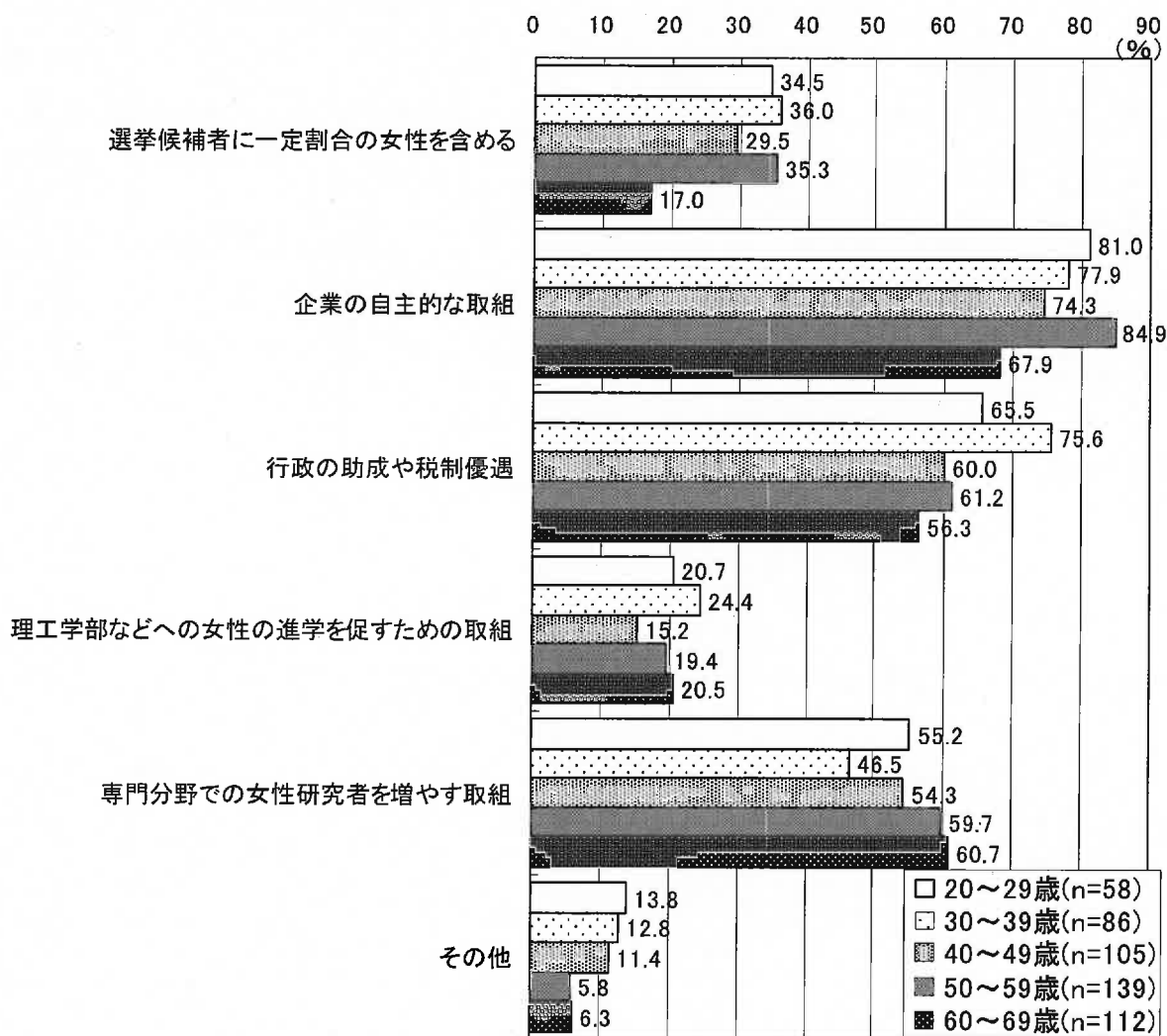
[図表 7-2-2] 女性の進出を進めるために必要なこと(男性・年齢別)《MA》



(3) 女性・年齢別

女性の回答を年齢別に見ると、「企業の自主的な取組」については50代で84.9%と回答率が高くなっており、そのほかの世代は年齢が上がるにつれて回答率が低くなっている。「行政の助成や税制優遇」に関しても、30代で75.6%と回答率が高いほかはおおむね年齢が上がるにつれて回答率が下がる傾向にある。「専門分野での女性研究者を増やす取組」は、逆に20代を除いては年齢が上がるにつれて回答率が高くなっていく傾向にある。

[図表 7-2-3] 女性の進出を進めるために必要なこと（女性・年齢別）《MA》



第八章 岐阜県の男女共同参画社会づくりの推進施策について

第八章 岐阜県の男女共同参画社会づくりの推進施策について

1. 男女共同参画社会づくりのために、今後、県や市町村が力を入れていくべきこと【問20】

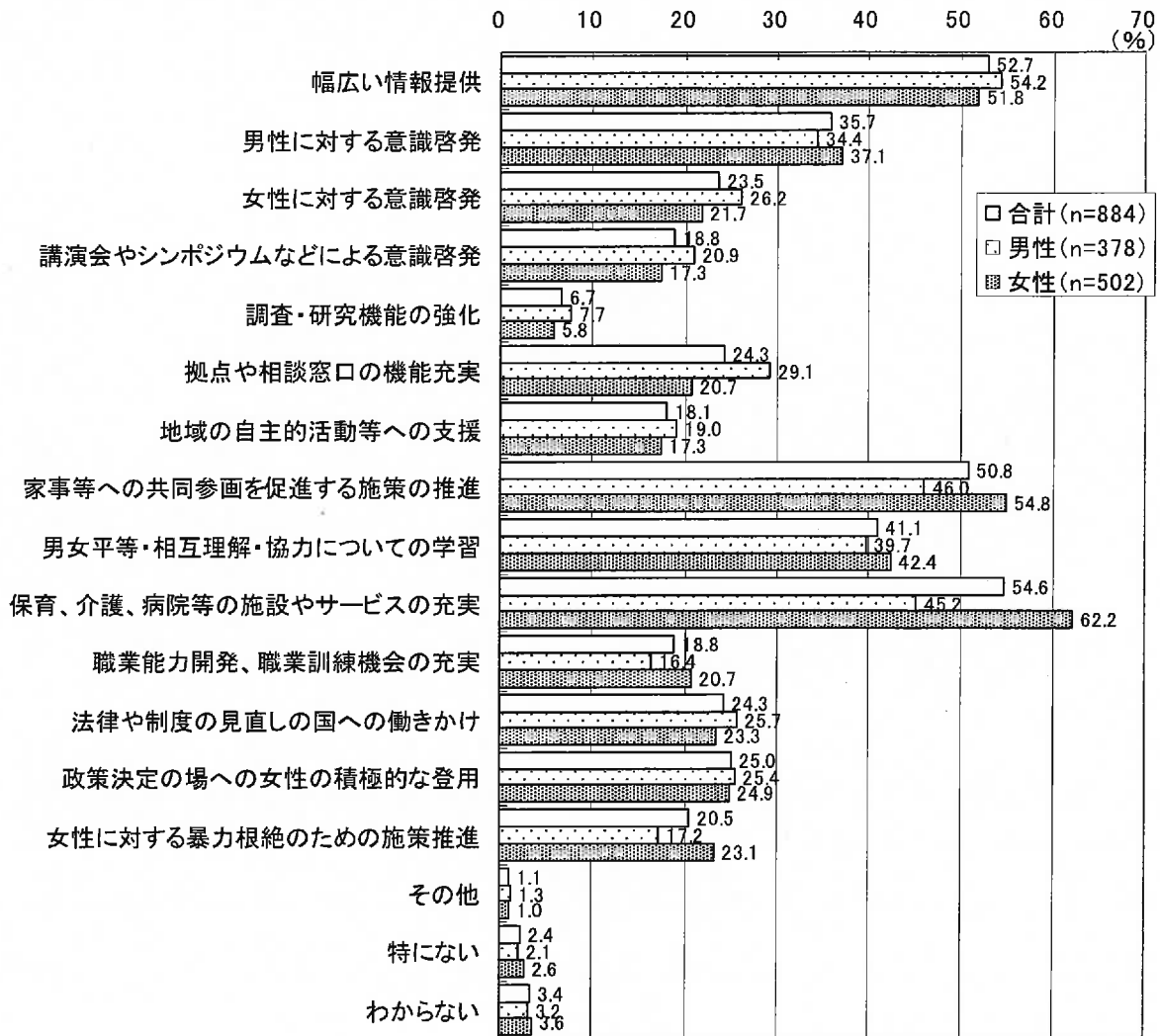
(1) 全体・性別

全体としては、「保育、介護、病院等の施設やサービスの充実」が54.6%で最も多くの回答を得た。これに次いで、「幅広い情報提供」が52.7%、「家事等への共同参画を促進する施策の推進」が50.8%、「男女平等・相互理解・協力についての学習」が41.1%などとなっている。

性別に見ると、全体で最も回答率が高かった「保育、介護、病院等の施設やサービスの充実」に関しては、男性では回答率が45.2%で第三位であるのに対して、女性では62.2%と非常に高くなっている。第二位の「幅広い情報提供」に関しては男女間で差異はほとんどなく、第三位の「家事等への共同参画を促進する施策の推進」については男性46.0%に対して女性54.8%と、男女間の差が大きかった。家事や子育て、介護などが関係する項目では、男性よりも女性の意識の方が高いことがうかがえる。

ほかに男女間で差が大きかったのは、男女共同参画のための「拠点や相談窓口の機能充実」と回答した割合が女性よりも男性の方が8.4%高く、「女性に対する暴力根絶のための施策推進」と回答した割合は男性よりも女性の方が5.9%高かった。

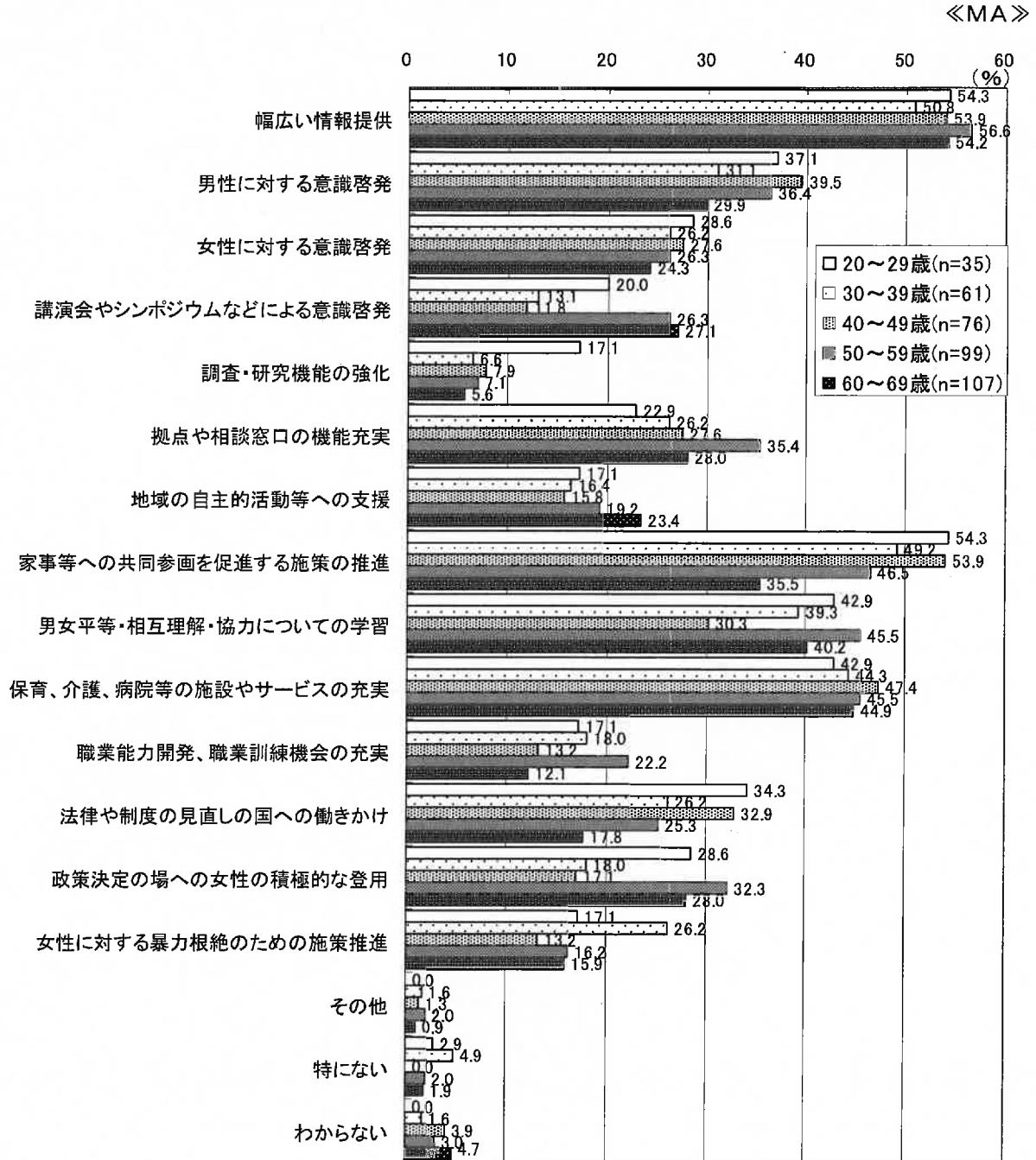
〔図表 8-1-1〕 男女共同参画社会づくりのために県や市町村が力を入れるべきこと（性別）《MA》



(2) 男性・年齢別

男性の回答を年齢別に見ると、男性の中で第一位だった「幅広い情報提供」については、比較的どの世代でも高い回答率となっている。第二位の「家事等への共同参画を促進する施策の推進」に関しては、20代で高い回答率となり、60代ではあまり回答率が高くなっていない。第三位の「保育、介護、病院等の施設やサービスの充実」に関しては世代間のばらつきは少ない。

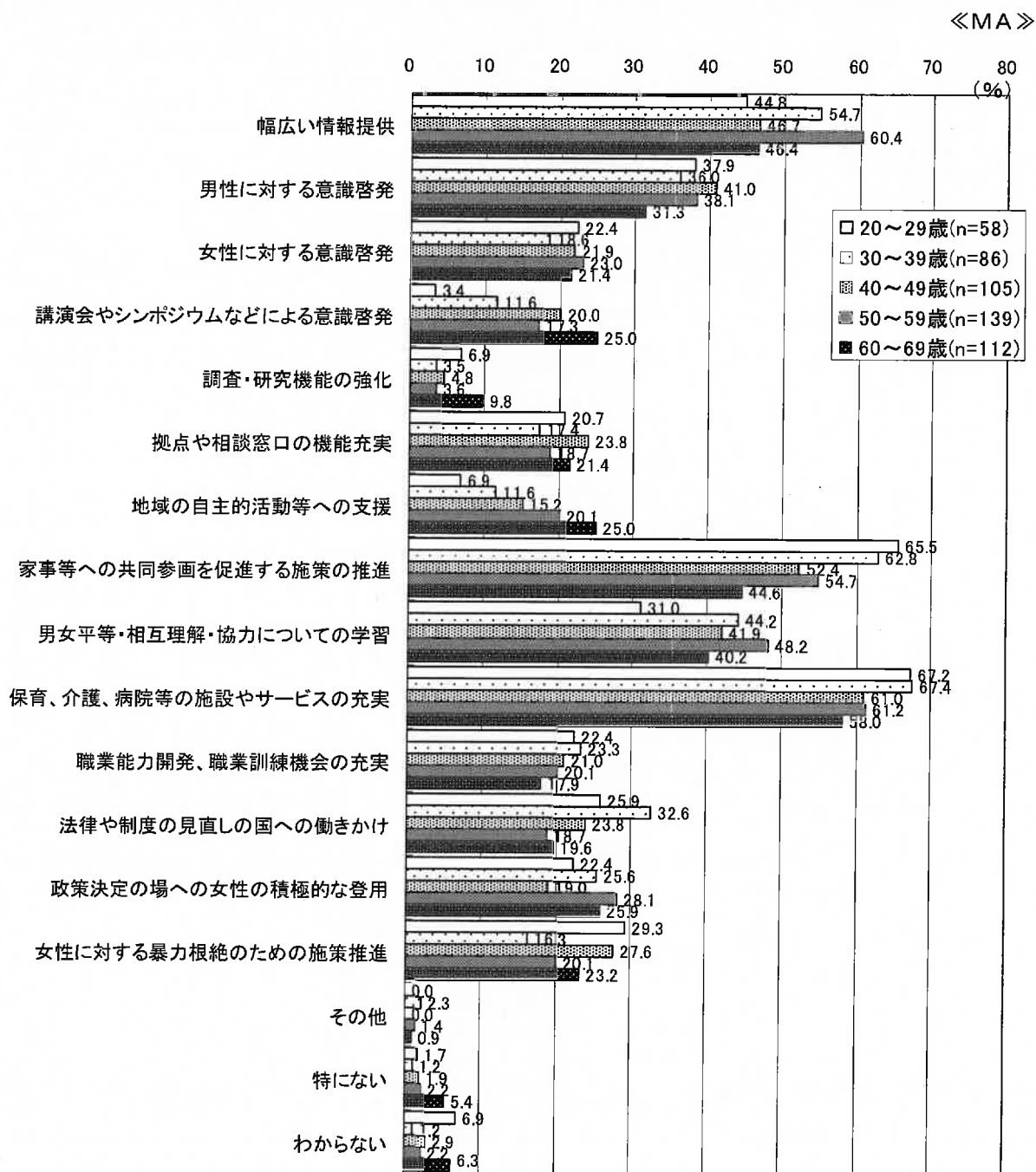
[図表 8-1-2] 男女共同参画社会づくりのために県や市町村が力を入れるべきこと（男性・年齢別）



(3) 女性・年齢別

女性の回答を年齢別に見ると、高い支持を得た「保育、介護、病院等の施設やサービスの充実」では、若い世代で回答率が非常に高いほか、高齢層でも高い回答率となっている。第二位の「家事等への共同参画を促進する施策の推進」については、20代、30代の若い世代で特に高い回答率となっており、第三位の「幅広い情報提供」に関しては世代間でまちまちだが30代、50代で回答率が高くなっている。

[図表 8-1-3] 男女共同参画社会づくりのために県や市町村が力を入れるべきこと（女性・年齢別）



2. 自由意見

(1) 女性の進出を支える条件について

- ◆働きやすい環境、子育てへの理解。(30代 女性)
- ◆子どもを抱え働く女性にもっと援助してあげてほしい。(40代 女性)
- ◆女性の出産育児(3歳ぐらいまで)の間の家事等を男性が積極的に。(30代 女性)
- ◆保育の施設がなく、職場を辞めざるを得ないことになった経験から30年以上経つが、現状はあまり変わっていないのでは。(50代 女性)
- ◆離婚やシングルマザー、働く女性などの育児や介護の負担を軽くする施設やサービスは特に大切で、身近で気軽に利用できるきめ細かい物が必要。(60代 女性)
- ◆女性の出産に対しての社会的な支援の充実を図っていただきたい。(50代 女性)
- ◆能力のある人は認めてほしい。女性が活躍できる場を提供してほしい。(40代 女性)
- ◆育児中の女性が何らかの方法で収入を得られるように対策すること。(20代 女性)
- ◆女性の社会進出は賛成だが、与えられた仕事は、男性に頼らず最後までこなすように。(40代 男性)
- ◆まだ女性自身の積極性が不足している。まず、本人の積極性が基本の一步。(50代 女性)
- ◆変化しやすい現代社会では女性の柔軟な考え方が大変重要。(40代 男性)
- ◆小学校低学年の児童は帰宅時間が早いため、女性はフルに社会に参加して働くことができない。学童保育の充実も考えていくべき。(60代 女性)
- ◆社会進出には配偶者控除がネック。扶養家族という立場も夫に養われているという意識を助長している。(50代 男性)
- ◆格差社会・競争社会が進む中で、女性の出産・育児・子育てに係る10数年間が、社会への貢献という観点で捉えられ、その後の職場復帰において評価されることが必要。(50代 男性)
- ◆基本的には女性のやる気!(50代 男性)
- ◆女性が積極的に能力UPに努められるようにする。(30代 男性)
- ◆働きたくても育児等のため働けない。保育施設・サービスの充実などを希望します。(20代 女性)
- ◆出産のために仕事を辞めた女性が再び仕事に就くことが大変。(50代 女性)
- ◆税制度を平等に整えてほしい。妻が、正社員よりパートでいた方が手取りが多いというのはおかしい。すべての女性がパートでなく、正社員としてバリバリ働ける方が良い。(40代 女性)
- ◆能力が備わっていれば男女間に格差はない。個々の能力を高めることが大切。(30代 男性)
- ◆私自身フルタイムで働いているが、日々の育児はほぼ一人で助けがないとできない。核家族でも育児、家事、仕事のできる社会にならない限り、女性の負担は軽減しない。(30代 女性)
- ◆働く女性の家事、育児、介護等の負担をもっと社会的にサポートしていかないと。(40代 女性)
- ◆仕事の知識も必要かもしれないが、仕事ができる環境作りが大切。子どもが病気の時も、急に残業がはいても安心して預けておける環境になれば、社会に進出することなど無理。(50代 女性)
- ◆介護の仕事は給料が低く、続けることが困難。そういうところも考えてほしい。(20代 女性)
- ◆土曜日に学校の授業参観があっても、まだまだ男性の参加が少ない。子どもの養育に関して、もっと積極的になって欲しい。夫婦のどちらもフルタイムで働くことは、無理がある。(40代 女性)
- ◆能力のある人がきちんと認められることが重要。(50代 女性)
- ◆男性のみ家族手当があったり、女性の基本給の昇給率が低いなど、男性優位の企業が多い。(50代 女性)
- ◆女性が社会に出るためには皆の協力が必要。男性の働く環境の見直しが必要。(30代 女性)
- ◆出産、育児がキャリアのマイナスになる社会では男女平等参画社会は実現できない。(40代 女性)
- ◆日々の生活で必要な作業を分担しようと思うと、職場でフレックス、育児休暇等を導入し、家庭生活、地域活動に携わる時間を作ってあげないといけない。(30代 女性)
- ◆育児と介護と家庭と仕事があまく回れば女性も生きやすく、結婚や出産、親との同居に積極的になれると思う。そうしやすい環境の県、市町村に住みたいと思うようになる。(30代 女性)

(2) 意識改革・教育について

- ◆家庭の意識を高め家庭教育を充実することが必要。(40代 男性)
- ◆個人個人が尊重し合える環境づくりのために、知識・教養を身につける場が必要だ。(20代 男性)
- ◆DVなどは、幼少期の家庭環境によるところが大きいと思う。(30代 男性)
- ◆学校教育、家庭教育、一般企業の教育が最も大切なものではないか。(60代 女性)
- ◆長男はあと取り息子で嫁と同居するものだという古い考えには納得いきません。(40代 女性)
- ◆女性が目立って活動すると、非難の声が上がるような事では社会は良くならない。(50代 女性)
- ◆家事、子育て、介護など、小さい時から男性の意識を学校や家庭でしつけ直さなければ、いつまでたってもこの問題は解決されない。(60代 女性)
- ◆高齢者の意識改革を行って欲しい。(40代 女性)
- ◆管理職の中にはまだまだ女は家庭、男は仕事という考えを持っている方が多い。(50代 女性)
- ◆女性の結婚、育児に関しての意識が低く、若い女性が結婚に対して積極的になれない。(40代 女性)
- ◆会社や政治の場で男女平等と声を上げてばかりいても、家庭の中での女性の負担が軽減しない事には本当の意味での平等はない。女性がバリバリ社会に進出する以前にまず男性に家庭第一になってもらう必要がある。(30代 女性)
- ◆男女共学、夫婦共働きが男女共同参画社会づくりの基本。(60代 男性)
- ◆男女共同参画社会の実現には、企業側の意識改革も必要。(20代 女性)
- ◆当事者、そのまわりの人の意識改革が一番の問題であり、大切なこと(40代 男性)
- ◆大人になってから男女平等と教えられてもなかなか生活に取り入れられないので、学校教育、家庭内で小さい頃から取り込むべきだと思う。(40代 女性)
- ◆封建的気運のような男尊女卑社会通念を打破することが、早道ではないか。(60代 男性)
- ◆男性優位の社会の仕組みは、子ども時代の教育から変えていかなければならない。(50代 男性)
- ◆「介護」「育児」等、もっと政治の場で話し合われるべき。(50代 女性)
- ◆男女の平等という考え方より、人として、理解し合える社会が大切だと思います。(40代 女性)
- ◆悪意でなくても、男性が女性を見る場合、性欲の対象として意識することが多い。女性を、人格を持った人間として見られないようでは、男女共同参画の理念の達成は難しい。(60代 女性)
- ◆私は逆に、これほど女性が恵まれていることはないと思う。「〇〇されて当然」と思う女性の意識を変えていくことが大切。(30代 男性)
- ◆社会全体が男性優位であることに対して、女性も従っている状態では共同参画社会の実現は難しい。女性自身が意識改革を行った上で、積極的に社会に参加していくことが必要。(30代 女性)
- ◆戦前の方々はやはりまだ男尊女卑の考えが強い。これからの世代は、平等に教育を受けた子が担っていくので、あとは政策、法律次第で男女共同参画が実現していくのでは。(40代 女性)
- ◆教育や文化を変えなければ、概念的なものは変わらない。(20代 男性)
- ◆制度はできていると思う。女性には任せられないという感情、女性だから大目に見てという甘えをなくすことが必要。(50代 男性)
- ◆学校で、男女共同参画を学んでいるであろうこれからの若い世代の人々に期待する。(40代 女性)
- ◆いざとなったら男や社会が何とかしてくれるという女性の甘えた考えを変えなければ、重大な責任を自分自身で取れる女性を育成するしかない。(30代 男性)
- ◆性差を理解した上での平等意識を育てる社会を形成することが重要。(50代 男性)
- ◆男も女も人間らしい生活を送るための教育は、子どもの頃から行うべき。(40代 男性)
- ◆特に女性に対しての習慣見直し、意識啓発を第一に行うべきである。(50代 男性)
- ◆幼少期に共同参画の基礎教育を徹底し、両親が共同参画を日頃家庭の中で実践する。(60代 男性)
- ◆TVでの政治家の無礼な発言などを聞いても、女性を見下した考え方は変えられない。家庭という小さな社会の中ですら、夫の協力がまだまだ不十分。(40代 女性)
- ◆個人でこりかたまった考えがあるのでなかなか難しいが、地味でも一歩ずつ行政サイドが動いていけば、必ず形になる。(40代 女性)

- ◆岐阜はたいへん保守的な地域と感じる。まずは男女ともに意識改革が必要。(30代 女性)
- ◆男女平等は当然だと思うが、性的違いは仕方がない。向き、不向きがあっても、それをフォローできる教育が必要だと思う。(30代 女性)

(3) 広報・啓発活動・意見交換・意見収集について

- ◆この調査で初めて「男女共同参画社会」という言葉を聞いた。すべての世代にもう少し分かりやすい言葉ならもっと答えやすい。(20代 女性)
- ◆まだまだ男女共同参加があまり広がりを見せていないように感じる。(20代 女性)
- ◆こういう調査は地域の意見を聞くのにとっても有効だ。(30代 女性)
- ◆言葉が難しく興味を持たれにくい。広く理解され実現していくには、簡単で分かりやすいキャッチフレーズのような言葉と内容で働きかけていくと良い。(50代 女性)
- ◆県の男女共同参画への取組がPR不足。特に町村役場職員でも専門職以外の職員は知識不足。(60代 男性)
- ◆啓発して、意識させることが一番大切。(20代 男性)
- ◆県や自治体の積極性が必要。特に雇用主に呼びかけ、一般の人も入りやすい講演会、セミナーを開催することが重要。(20代 男性)
- ◆まだまだ男女共同参画社会という言葉と知識が知られていない。まず知ってもらうことが大事。(50代 女性)
- ◆男女共同参画という言葉を知った。私の周りにはそんな人ばかり。このような取組があることを市民に知らせなければ、進まない。(60代 女性)
- ◆調査結果をどう役立ててるのか。たくさんアピールして。(40代 女性)
- ◆個人レベルで「法律」「制度」に対しての知識をつけ、認識した上で考え、見直しを図ることが重要。(20代 男性)
- ◆県や市町村、国が何かを働きかける前に、男女共同参画の意味を皆が理解できなければいけない。(30代 女性)
- ◆「男女共同参画社会」の意味がだいたいわからない。もっと簡単な表現はなかったんですか？(50代 女性)
- ◆「男女共同参画社会」のPRが不足しているかも。(40代 男性)
- ◆男女共同参画のシステム、活動等知らなかった。県民の皆さんにも知って欲しい。(60代 女性)
- ◆無関心な人が多いと思うので、誰でもが簡単に参加できるよう、少しずつ知ってもらう必要がある。(50代 男性)

(4) 男女共同参画に対する疑問・懸念など

- ◆男性が女性らしく、女性が男性らしくなる事によって、更に世の中がおかしくなっていく様に見える。もっと日本の良い所を見つめ直してほしい。(30代 男性)
- ◆女性が過度に社会に進出することによって、家庭がおろそかになり常識のない子どもが増加してしまう。子どもができてから働くにしても、家庭第一という意識を持ってほしい。(20代 男性)
- ◆共同参画を推進するあまり社会のバランスが崩れないか。男も女も意識を変え、時間をかけて取り組んでほしい。(40代 男性)
- ◆男女共同参画社会が実現することが、素晴らしいことなのかどうかよくわからない。女性の役割、男性の役割もきちんとあり、どんな立場でも尊重されるのがいいことと思う。(30代 女性)
- ◆子どもには無条件の愛情が必要であり、経済的に許されるのであれば女性は家庭にいた方がいいと思う。子育てくらい大切な社会参加はない。家事や介護は男にしかできないことも多いので、積極的にやるべきだ。(30代 男性)
- ◆なぜ共同参画が必要なのかがわからない。性別の違いによる適材適所があると思うので、積極的に「女性も男性と全く同じ地位、扱いを」とはあまり思わない。(20代 女性)

- ◆男女の根本的な違いに関して互いに理解し合う必要がある。共同参画社会は、「男らしさ」「女らしさ」が取り入れられて実現されるもの。法的な面での男女平等を決め付けるのは自然でない。(50代 男性)
- ◆男女の区別をはっきり区切ろうとするとあまり良くない気がする。(30代 女性)
- ◆男女平等と唱えるうちに男性の良い特質、女性の良い特質が失われていく。男女が互いの特質を認め合い、また個々の家庭のやり方等も認め合いながら社会を作っていけば良い。(40代 女性)
- ◆男女共同参画が進まないから「遅れている」とか「不幸」と決めつけることは良くない。あくまで、男女ペアが互いを尊重し、家族を大事にしていける社会が望ましい姿である。(40代 男性)
- ◆「男女共同参画」と称しておおらない方がよい。個々人の意識の中でそれぞれの立場で社会参画している。(50代 男性)
- ◆昔ながらの男は仕事、女は見守りがすごく大事だと思う。(30代 女性)
- ◆出産、授乳は女性の特有の事であり、子どもの食事等の家事はその延長。あえて共同参画社会の推進を進める必要はない。(40代 男性)
- ◆男性は子どもが産めない、女性は産める。それは変わらない。男女のそれぞれの良さを認め合い子育てしていくのがベスト。(40代 女性)
- ◆男女共同参画社会は結構だが、それによる弊害にも目を向けていただきたい。(20代 男性)
- ◆元々の性差というものも考慮に入れるべき。すべて平等とはいかない。(20代 男性)
- ◆男女平等だといって、夜、女性が無理に働けるようにして、ますます女性を苦しめている。(60代 女性)
- ◆男だから、女だからと差別されるのはおかしいと思うが、男女それぞれの良さがあるのだから、それでいいと思う。女性が甘えている部分も大きいと思う。(40代 女性)
- ◆男性だから、女性だからといった理由で差別を受けるようなことがあってはならないが、男性にしかできないことがあり、女性にしかできないことがあるという、自然の仕組みを排除したような男女平等には違和感を覚える。(30代 女性)
- ◆男は男、女は女とそれぞれ特徴があるわけですから、何が何でも平等でなければいけないということではない。(60代 女性)
- ◆男女ともに能力差があるのは当たり前なので、無理に平等を進める必要はない。(20代 女性)
- ◆男女共同参画社会といっても、男性の役割、女性の役割はある。それが最大に社会で発揮できればいい。(20代 女性)
- ◆あまり賛成でない。子どものために家族のために、子どもが成人するまでは家族を大事にして欲しい。(50代 女性)
- ◆男女には体力、感性など全く違う部分と、人間としての権利など同権で認められなければいけない部分があって、それを男女お互いが理解した上で、それぞれの役割を分担しあっていくべき。(30代 女性)
- ◆男性が家事・育児に参加するのが平等とは思わない。それぞれ個々の得意分野をすべき。夫が早く帰ってくると給料が減り生活ができなくなるので、育児を手伝ってもらいより働いて欲しい。女性の家事、育児が必ずしも女性の地位の低さを表しているとは思えない。(30代 女性)
- ◆結局、男女平等なんてありえない。子どもがいると仕事も思うようにできない。(30代 女性)
- ◆女性が企業などで役職につくことはどうかと思う。まだまだ男女共同参画は難しい。(30代 女性)

(5) その他

- ◆共同参画社会とは、生活が豊かでボランティアにも参加でき、県や町内が企画する行事に参加でき、心に余裕がある人がやること。文面だけの男女共同参画社会は公務員の暇つぶし。(60代 女性)
- ◆私たちの子どもが大人になる頃には、「男女共同参画推進」が死語になっているくらい男女が平等になっていけば良い。(30代 男性)
- ◆県みずからが男女共同参画社会の実践を示すことが重要。(40代 男性)

- ◆「ポストは人を育てる」。まず県が知事、部長、課長に女性を起用。それができずに民間企業や地域に押し付けてもだめ。(50代 女性)
- ◆国会、県議会、市議会と議員の女性比率が少なすぎる。先進諸国のように、30%を超えないと男女共同も進まないと思う。(40代 男性)
- ◆男性だから、女性だからということはないと思うが、働きやすい環境と、過ごしやすい地域づくりさえあれば、幸せに、何も困らず生きていける。(20代 女性)
- ◆男だから、女だからではなく、一個人として的人格、人権を尊重できる暮らし方ができる社会であればいいと思う。(50代 女性)
- ◆きれいごとの共同参画ではだめ。介護でも生活が成り立ち、金銭的にも負担が少なく安定すること。(60代 女性)
- ◆こんな調査をする前に、大の大人の賃金がどうなっているか調査すべき。日本も貧富の差が激しくなり、心のゆとりが持てず、人をだまし、人を傷つけ、人を殺してでも金を手に入れようとする。この先、日本がもっと荒廃するであろう。(50代 男性)
- ◆男だから、女だからというよりも、個人の能力、適性の問題。(40代 女性)
- ◆男女それぞれの適性にあった活躍をし、その中で協働できるものはすればよい。(60代 女性)
- ◆女性が家庭的でなくなっている。女性が強すぎる。(50代 女性)
- ◆今就職活動中だが、周りの話を聞くとやはり女性はまだまだ社会の中で低い位置にいるようだ。そういった話を聞くと、私自身も自分の将来に不安を感じてしまう。やはり、個人を守るのは国であり県であり、市であると思うので、女性が働きやすい国づくりをしていただきたい。(20代 女性)
- ◆核家族が社会の主流だが、親があつて子があつて孫がいてともに支えあつて生きること、これが失われたためいろいろな問題が起きているように思う。個人主義もそろそろ限界。(60代 女性)
- ◆極めて日本的な問題である。先進的な国の現状とシステムを積極的に学ぶべき。(50代 男性)
- ◆女性の社会進出と子どもに注ぐ愛情の量が反比例しない社会制度を望む。(20代 女性)
- ◆中途半端な取り組み方は、女性を二階に上げて梯子をはずす状態になりかねない。今の女の人は、かなり自分の意見も言えるししっかりしているし、世の中の男性の意識も変わってきている。男女共同参画して働き、子どもを豊かに育てるためには、まず若い方々の生活が大切。(60代 女性)